

# 文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議（第2回）

## 次第

日時：令和5年8月28日（月）15:00～17:00

場所：旧文部省庁舎2F 第2会議室（対面・WEB会議の併用）

1 開 会

2 議 事

（1） 文化芸術教育の充実・改善方策について

（2） その他

3 そ の 他

4 閉 会

### <配布資料>

資料1 横浜市教育委員会 北部学校教育事務所  
松山麻衣子 主任指導主事 提出資料

資料2 永添委員 提出資料

資料3 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課  
新谷浩一 課長 提出資料

# 小学校 図画工作科の現状

## 「美術館等との連携」 「ICT活用」

---

横浜市教育委員会  
北部学校教育事務所  
主任指導主事

松山 麻衣子

# 横浜市の「図画工作科」

---

## 「横浜市小学校図画工作教育研究会」の活動

- ・月一回の研究會(実践提案、実技研修等)
- ・夏季実技研修
- ・一斉授業研究会

## 「横浜市教育課程研究委員会 図画工作科、美術科専門部会」の開催

令和5年度 テーマ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～

各区ごとの図画工作研究会及び一斉授業研究会

図画工作科重点研究校

# 第4期 横浜市教育振興基本計画(2022～2025)

## 「本物」に触れる機会の創出

### 柱 3

### 豊かな心の育成



#### 施策 1

#### 人権尊重の精神を基盤とする教育活動の推進

##### 【「本物」に触れる機会の創出】

- 豊かな心を育成するため、オーケストラやバレエの鑑賞など音楽・舞台芸術体験を通して感性を磨き、心豊かに生きていこうとする資質や能力をはぐくむとともに、市内文化施設や芸術団体等がコーディネーターとして、様々な分野で活躍するアーティスト（芸術家）と学校をつなぎ、子どもが「本物」に触れる機会を創出しています。
- 文化芸術創造都市である横浜市では、文化施設、芸術団体、アーティスト（芸術家）と学校が連携・協働し、文化的体験を数多く生み出すことで、子どもたちの豊かな感性や情操をはぐくむことが期待されています。

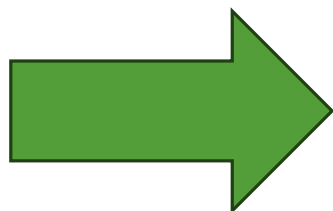


# 美術館やアーティスト等との連携

---

## 「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」事業 学校プログラム

- ・学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」
- ・横浜市の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う機会の拡大



音楽・演劇・ダンス・**美術**・伝統芸能

令和4年度 年間143校 実施

「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」

## 活動例① A小学校の取組

### 学校創立150周年を記念した、児童による壁画製作

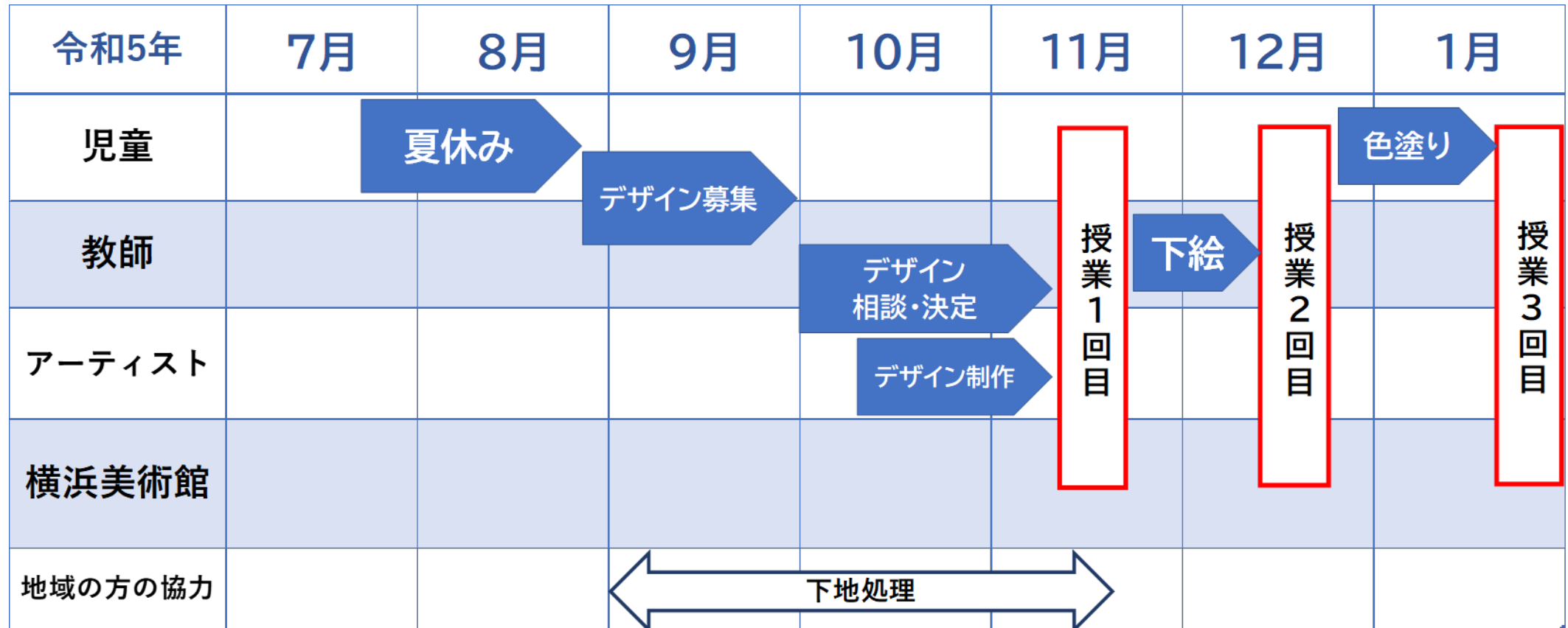
---

- ・アーティストと学校を、横浜美術館がコーディネート
- ・デザイン決定から実際の壁画完成までをアーティストがサポート
- ・6年生を中心に、全校児童が壁画製作に取り組む
- ・体育館の壁面を利用



# 活動例① A小学校の取組

## 活動の流れ



# 活動例① A小学校の取組

## 活動内容

学校の150周年記念キャラクターと花の絵をモチーフに、  
150周年スローガンの意味する「国際色豊か」「多文化共生」  
(=多様性)のイメージを壁画にする。

	時間	時数	対象学年	場所	授業内容	備考
授業1回目 (11月)	5時間目	1	4・5・6年生	体育館内	アーティスト紹介 壁画の歴史 デザインの発表 工程について	放課後に先生方 へレクチャー
授業2回目 (12月)	2～4時間目	2	6年生	体育館内 壁面	色の作り方 塗り方 道具の使い方 デモンストレーション	1～5年生は、 6年生の授業を 録画したものを 別で鑑賞する 時間を設ける
授業3回目 (1月)	未定	1	全学年	未定	振り返り 感想	

※記念壁画完成後に、全学年でそれぞれ「鑑賞」の時間を設定予定



## 活動例② B小学校の取組 「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」

# 「ゆらゆらバランスストイ作り」

### 個別支援学級

### アーティストによる図画工作科の授業（コーディネーター：横浜美術館）

- ・3日間かけてじっくりと一つの作品をつくり上げていくプログラムを実施
- ・初日は木材を使い、木の匂いや肌触りを体感しながら製作
- ・2日目は粘土、3日目は絵の具など、普段から触れている材料を使用
- ・自らがイメージしたものを、自分で形にする経験の場



子どもたちが「楽しい」と感じる活動の中で、形や色などを基に自分のイメージをもち、様々に試しながらつくりだす喜びを味わえるようにする。



## 活動例② B小学校の取組 「ゆらゆらバランスストイ作り」

# 活動を終えた感想

---

### アーティストから

様々な素材と表現方法で一つの作品を作り上げました。「木材を積み上げる造形・粘土の自由な表現・絵の具による着色」の中から子ども達一人ひとりが自分のイメージする創作を見つけ、面白さを感じているようでした。やりたい事をしっかりと持ち、じっくりと制作をしており、立体造形に関心を持って取り組んでいる様子をたくさん見る事ができました。手をたくさん動かす今回の制作が表現する事の面白さとなっていましたら嬉しい限りです。

### コーディネーターから

木材や粘土など、様々な素材を使ったプログラムですが、子どもたちが「自分で手を動かし、自分で考えてつくる」ための工夫に溢れていました。ノコギリを使って自分で木を切り、いい匂いがするねと笑い合い、石粉粘土の独特の触り心地に驚き、子どもたちにとって新しい体験になったと感じます。ゆらゆら揺れるやじろべえのバランスストイが土台の上に立ち上がった瞬間の子どもたちの嬉しそうな顔が輝いて見えました。

# 「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」 その他の活動例

- 自分で色をつくろう！ 絵の具と粘土の活動
- 紙テープをつなげてみよう 紙で動物をつくろう
- ダンボールで自分だけのモビールを作ろう！
- わくわく DokiDoki 土粘土 ～土器をつくろう！～



# 「本物」に触れる … 今後の課題

---

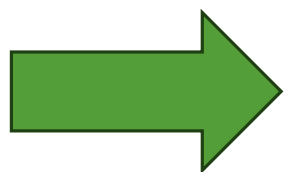
- ・図画工作科の指導事項を踏まえた連携内容の更なるブラッシュアップ
- ・主に小学校高学年の鑑賞の活動における美術館活用
  - 休館中の横浜美術館のリニューアルオープンに向けて、  
連携や活用方法を再検討
- ・学校主体による地域人材・資源の活用促進



児童が「造形的な見方・考え方を働かせる」機会をよりいっそう広げる

# ICT活用

- 「横浜市小学校図画工作教育研究会」による  
「夏季実技研修会(ワークショップ)」



## 例年、ICT活用講座を実施

令和3年度「ICTを活用した造形遊び」

令和4年度「プログラミングやアプリの活用」

令和5年度「タブレット端末のカメラ機能、アプリの活用」

- 横浜市教育委員会が令和2年度から全教員向けに作成している「資質・能力育成ガイド」において、各教科のICT活用事例を掲載





# 第4期 横浜市教育振興基本計画(2022～2025)

## 横浜市におけるGIGAスクール構想

### 柱 1

一人ひとりを大切にした  
学びの推進



### 施策 2

情報教育の充実及び教育 DX の推進<sup>21</sup>

#### ● 施策の目標・方向性

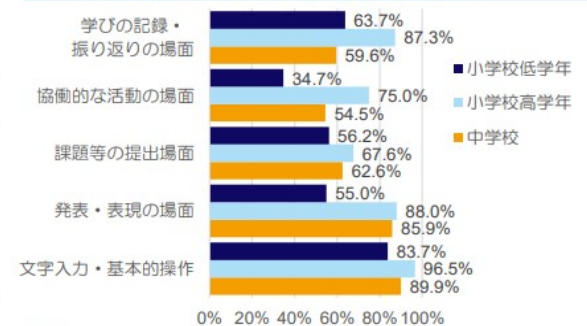
- ◆ 「GIGA スクール構想<sup>3</sup>」を踏まえ、1人1台端末等のICT環境を効果的に活用し、児童生徒の情報活用能力<sup>22</sup>及び教職員のICT活用指導力の育成を図ります。
- ◆ 新たな教育センターの開設に向けて機能・連携の強化を図るとともに、EBPM（エビデンスに基づく政策形成）を推進することで、より効果的・効率的な教育活動や教育施策を実現します。

#### ● 現状と課題

##### 【横浜市におけるGIGAスクール構想<sup>3</sup>】

- 国において、当初令和5年度までとしていた1人1台端末の整備が令和2年度中へ前倒しとなったことを受け、横浜市では令和2年9月に「GIGAスクール構想<sup>3</sup>」を公表しました。
- 「GIGAスクール構想<sup>3</sup>」に基づき、端末や校内LAN等のICT環境を整備するとともに、横浜市が今まで取り組んできた新学習指導要領に基づく教育実践と、最先端のICTのベストミックスを図ることにより、「個別最適な学び」と「社会につながる協働的な学び」を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んできました。引き続き、全ての学校で等しく児童生徒がICTを活用できる環境整備、児童生徒の情報活用能力<sup>22</sup>や教職員のICT活用指導力の育成、最先端の研究の実施等により、教育の在り方を日々アップデートする必要があります。

##### 授業でICTが活用されている場面



出典：GIGA 端末の利用状況と活用推進等に関するアンケート（令和4年5月：横浜市）

- ◇ 全ての学校で等しく児童生徒がICTを活用できる環境整備
- ◇ 児童生徒の情報活用能力の育成
- ◇ 教職員のICT活用指導力の育成
- ◇ 最先端の研究の実施等

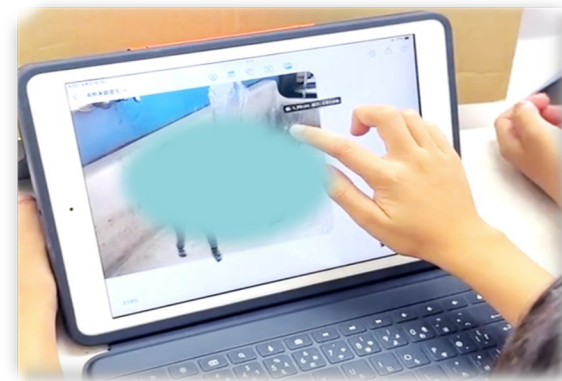
# ICT活用例 C小学校の取組 造形遊びをする活動

## 3年「ミニミニさんのスクールライフ」

### 活動の流れ

ミニミニさんのスクールライフ  
～巨大な学校で〇〇をやってみた！～

- 1 理科室や図工室を探検してみよう！
- 2 ミニミニさんがやってみたいことを考えよう！
- 3 材料や用具を動かして、場面をつくってみよう！
- 4 ミニミニさんのポーズを撮影しよう！
- 5 フリーボードを使って編集しよう！
- 6 ふりかえりカードを書こう！
- 7 提出箱に、写真とふりかえりカードを送ろう！



ICT活用例 C小学校の取組 造形遊びをする活動  
3年「ミニミニさんのスクールライフ」

題材の指導計画における3つの工夫

出あいの工夫

実際に教師が作った画像を見せ、いつもの風景を非現実的な空間としてイメージをもてるようにする。

場の設定の工夫

普段、目にはしているものの、使ったことのない用具を並べ、自由に使って活動を始められるようにする。

共感的支援の工夫

子どもたちに声をかけ、対話をしながら、イメージを広げていく。





## 3年「ミニミニさんのスクールライフ」

### 本題材で発揮された資質・能力

- 問題発見・解決能力
- 自分の考えを相手に伝える力
- 造形的な見方・考え方の広がり

#### □ ICT機器活用力

⇒ タブレット端末のカメラ機能、アプリ等を活用することで、児童がより主体的に学習に取り組む様子が見られた。

# 図画工作科・美術科のICT活用例

## ■活動や作品の記録

- ・ 製作（制作）過程や完成した作品の記録（写真・動画）
- ・ 題材のねらいに即した活用
- ・ 学習評価の手立てとして

## ■共有

- ・ 友達の作品を鑑賞する
- ・ 自分の作品を紹介する
- ・ 感想を共有する

## ■「表す」「イメージする」「試す」

- ・ アイデアスケッチ
- ・ アプリの活用
- ・ プログラミング
- ・ 製作過程での試行錯誤
- ・ 用具の使い方、技法の理解

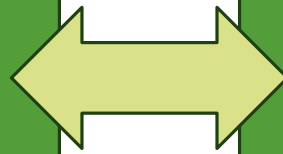


# 授業改善の視点

---

表現及び鑑賞の活動を通して

「本物」に触れる機会  
(美術館、アーティスト等)



ICT活用

図画工作科、美術科においては、「本物」に触れる機会とICT活用場面をバランスよく設定し、相互に関連させながら資質・能力の育成を目指したい。

文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議第2回

# 日本文化理解教育が 学校教育にもたらす無限の可能性



**近畿大学**  
KINDAI UNIVERSITY

産業理工学部 教授 永添祥多 Shota Nagasoe

# 自己紹介

<出身> ・ 山口県下関市生まれ

<学部時代>

- ・ 文学部史学科で江戸幕政史を専攻

<大学院時代>

- ・ 教育学研究科で近代日本教育制度史（特に中等教育から高等教育へのアーティキュレーションの形成）を専攻

<職歴>

- ・ 大分県及び山口県の県立高校教諭（日本史担当）
- ・ 九州大学講師・西日本工業大学教授を経て現職

<現在の専攻分野>

- ・ 山口県域を中心とした近代日本教育史・日本文化理解教育・高校の歴史教育

<研究業績等>

- ・ 最近の著書：『徳川将軍の治世と人物像』 風間書房（2023） 他
- ・ 和文化教育学会理事も務める

# 本発表の内容

## 1. 日本文化理解教育

- (1) 日本文化理解教育とは
- (2) 我が国の伝統や文化の具体的内容

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場(小・中学校)の意識実態

- (1) 我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態
- (2) 我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態
- (3) 学校現場は我が国の伝統や文化の教育に何を求めているのか

## 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

- (1) 児童・生徒の変容
- (2) 教員の資質・能力の向上
- (3) 学校経営の活性化
- (4) 学校と地域社会との連携体制の構築
- (5) 国際理解教育の前進

# 1. 日本文化理解教育

## (1) 日本文化理解教育とは

「我が国(地域も含む)の伝統や文化について、それらの価値を理解し、尊重するとともに、継承・発展させるための教育(主に学校教育)」  
のこと

(出典)

著者『日本文化理解教育の目的と可能性—小・中学校の事例を中心として—』（風間書房、2011）

# 1. 日本文化理解教育

## (1) 日本文化理解教育とは

### ・「伝統」の概念

一般的に、我が国の長い歴史の中で培われ、伝えられてきた  
風習・制度・信仰・思想・学問・芸術やそれらの中心をなす精神的在り方

### ・「文化」の概念

人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果のことで  
あり、衣食住・科学・技術・学問・芸術・道德・宗教・政治など

### ・「伝統」と「文化」の関係

共通部分や表裏一体の部分も有しており両者は相互に密接な関係を有している

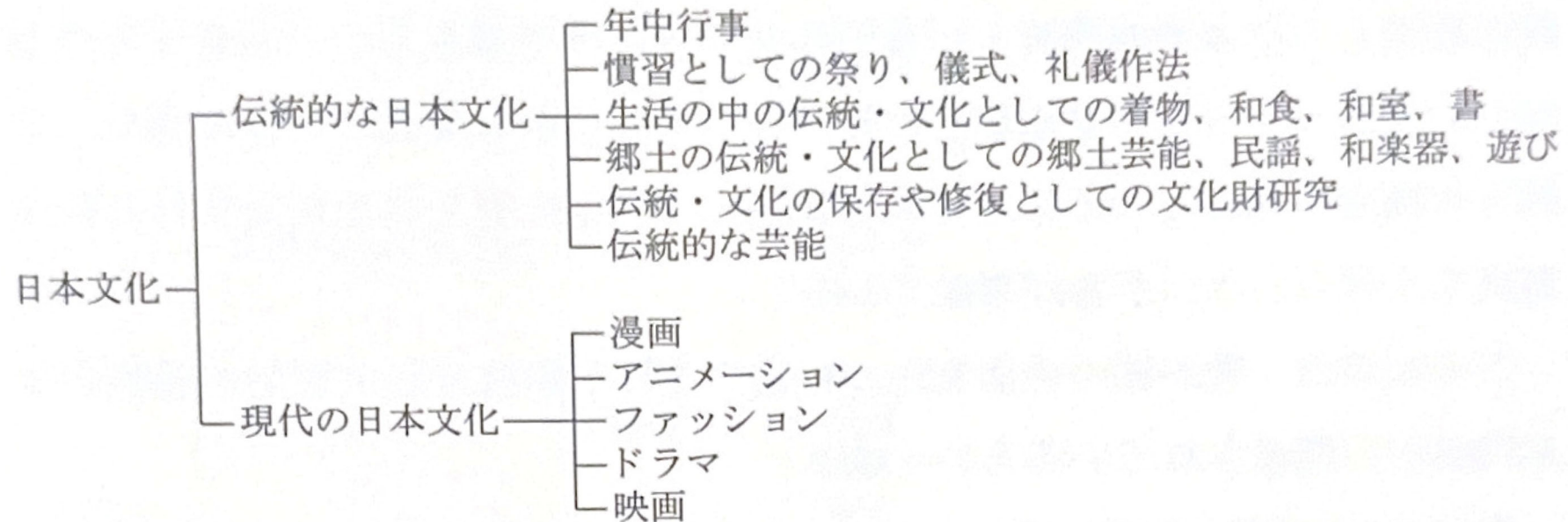
(出典)前掲書



# 1. 日本文化理解教育

## (2)我が国の伝統や文化の具体的内容

### ①東京都教育委員会が示した内容



(注) 『日本の伝統・文化理解教育推進会議報告書』(東京都教育委員会、2006) により作成。

図1 東京都教育委員会による日本文化の種類

(出典)前掲書 及び 拙著『日本文化発信力育成の教育』(風間書房、2016)

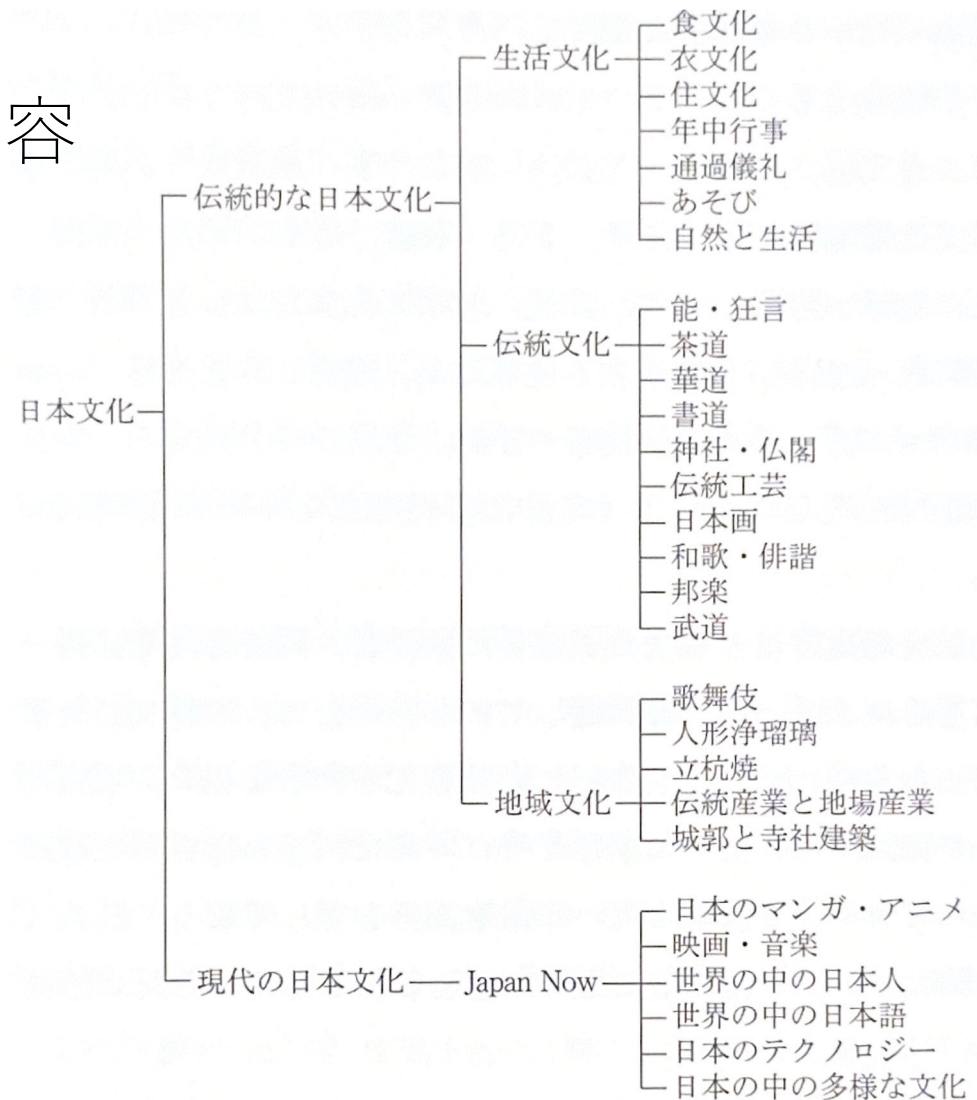
# 1. 日本文化理解教育

## (2)我が国の伝統や文化の具体的内容

### ②兵庫県教育委員会が示した内容

図2 兵庫県教育委員会による日本文化の内容→

(出典) 拙著『高等学校の日本文化理解教育』(風間書房、2009)  
及び前掲『日本文化理解教育の目的と可能性』



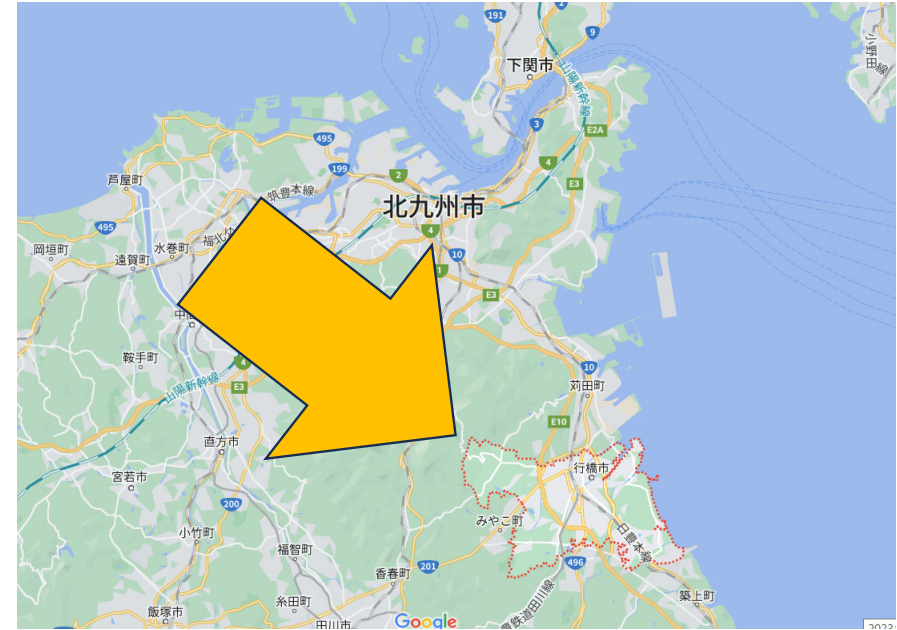
(注) 『学校設定科目 日本の文化』(兵庫県教育委員会、2007) により作成。

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場(小・中学校)の意識実態

研究方法 質問紙調査結果の分析による

調査対象 福岡県行橋市  
(福岡県東部・人口約7万人) の  
市内小学校 2 校、市内中学校 1 校の  
教員・児童・生徒

2009(平成21)年10月実施



出典 Google Map

有効回答数 小学校教員 (教諭及び臨時講師) 29名  
中学校教員 ( 同 上 ) 10名  
小学校児童 226名 (5年生114名・6年生112名)  
中学校生徒 270名 (2年生158名・3年生112名)

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (1) 我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態

#### ① 我が国の伝統や文化の教育に対する関心の有無

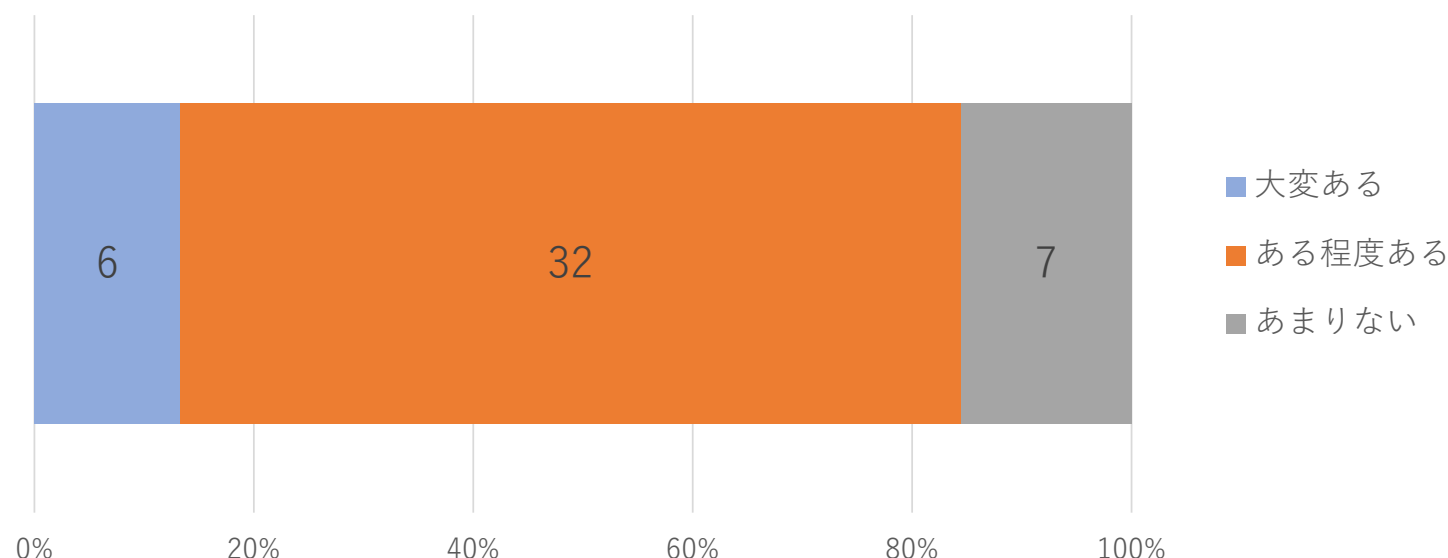


図3 伝統や文化の教育に対する関心の有無(小・中学校教員全体)

⇒ 小・中学校教員の約8割が伝統や文化の教育に関心を有している

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (1) 我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態

#### ②重視すべき内容とは（複数回答可）

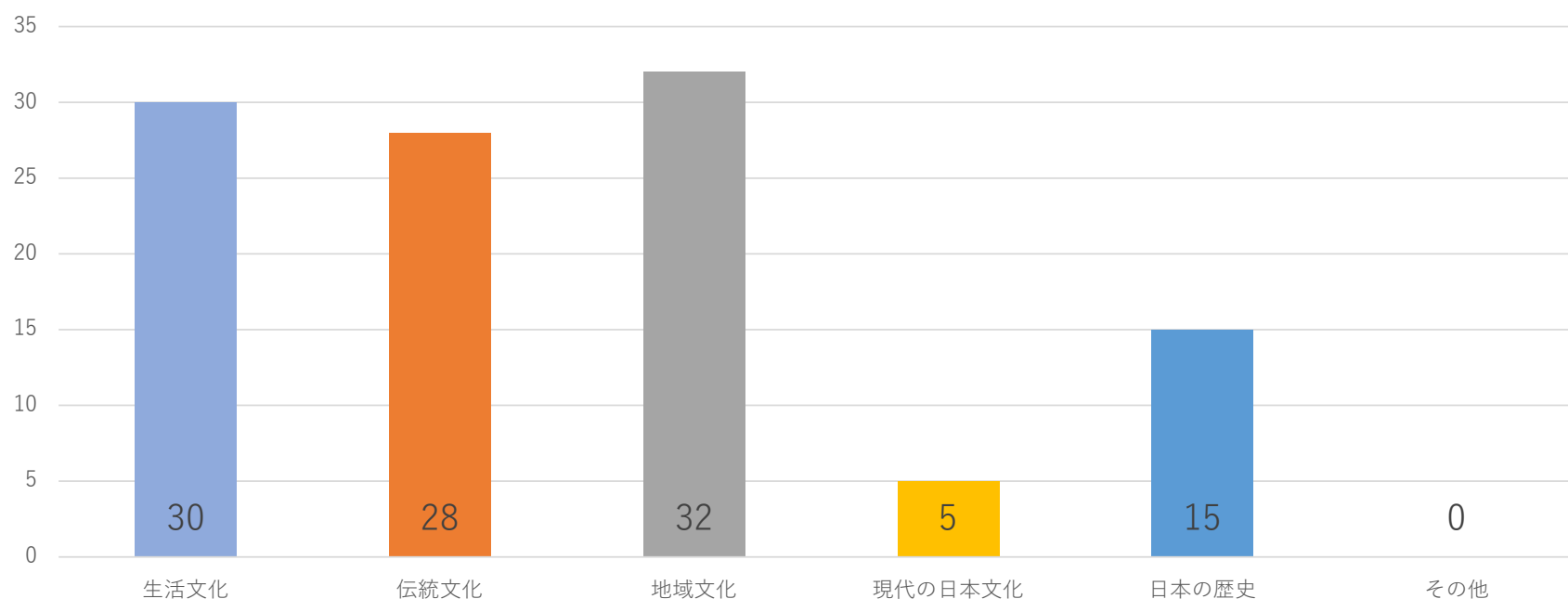


図4 重要と考える伝統・文化の指導内容(小・中学校教員全体)

⇒小・中学校教員は日本文化の教育を伝統文化の教育と捉えている

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (1) 我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態

#### ③ 伝統や文化に関する教育の実践経験

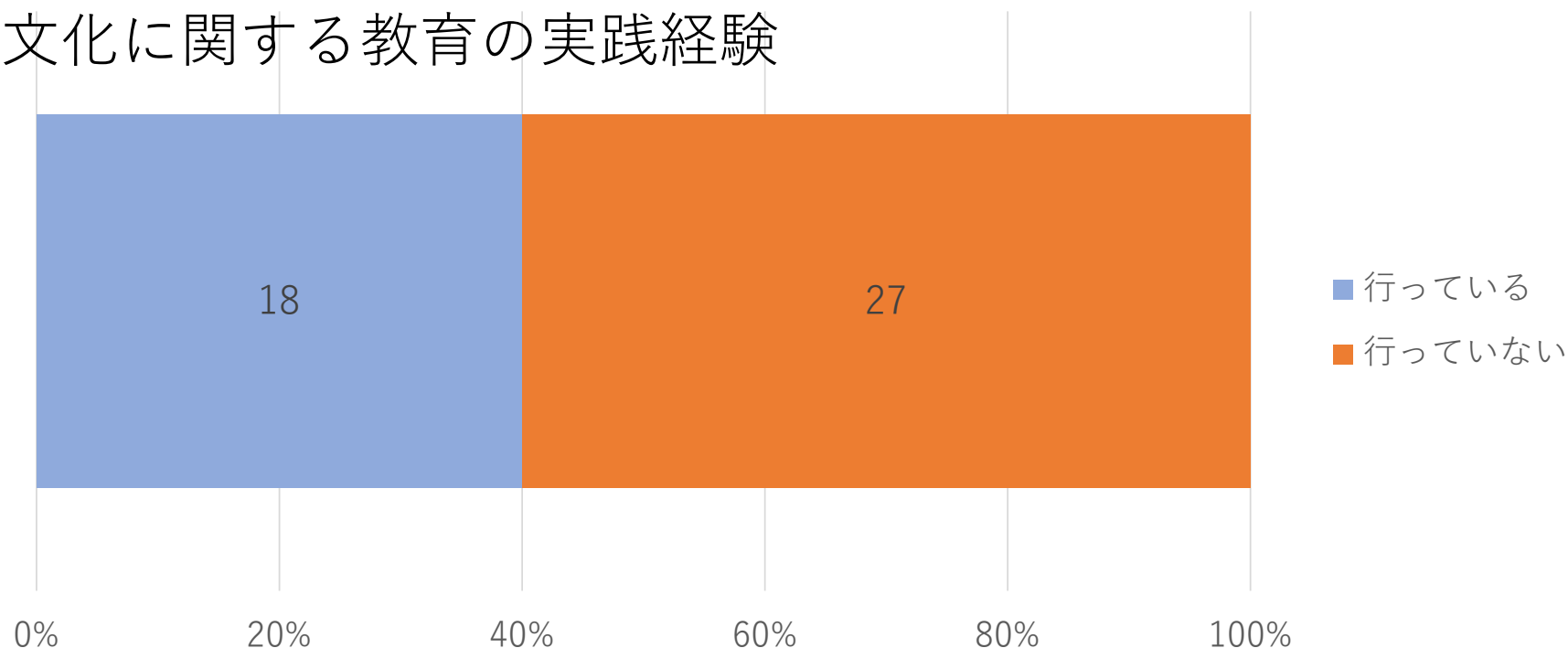


図5 伝統や文化に関する教育の実践について(小・中学校教員全体)

⇒ 小・中学校教員の中で意識的に伝統や文化の教育を行っている教員は4割に過ぎない

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (1) 我が国の伝統や文化の教育に対する教員の意識実態

#### ④ 伝統や文化に関する実践形態（複数回答可）

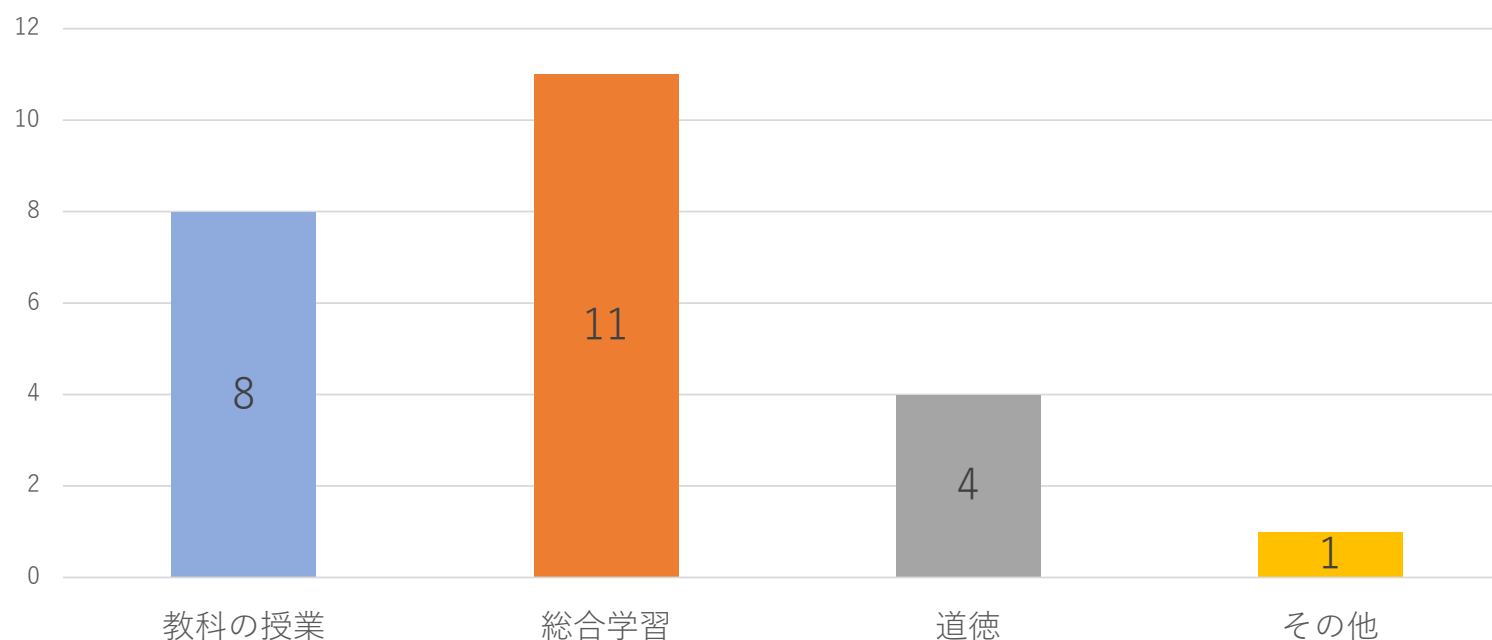


図6 伝統や文化に関する教育の実践形態

⇒ 総合的な学習の時間や各教科の授業で実践している小・中学校教員が多い



## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### ①我が国への児童・生徒の帰属意識

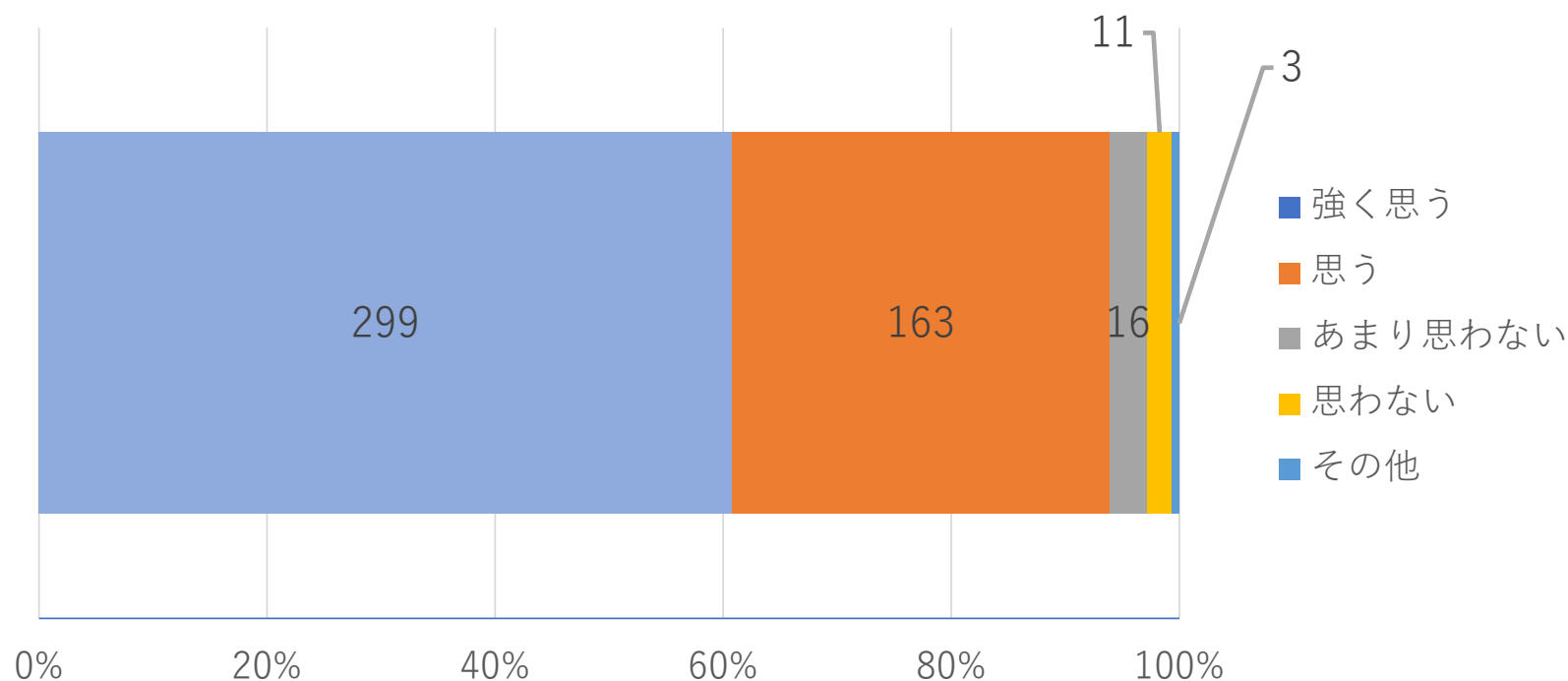


図7 我が国に生まれて良かったと思うか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の約9割が日本に生まれて良かったと思っている



## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

表1 我が国に生まれて良かったと考える理由(小・中学生全体)

	理由
①	平和な国だから(戦争のない国だから)
②	豊かな国だから
③	日本の文化は多彩で伝統があるから
④	科学(工業)技術が発展しているから
⑤	自然環境に恵まれているから

(注)回答数の多い順に上位5位までをあげた

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### ②我が国の伝統や文化に対する児童・生徒の意識

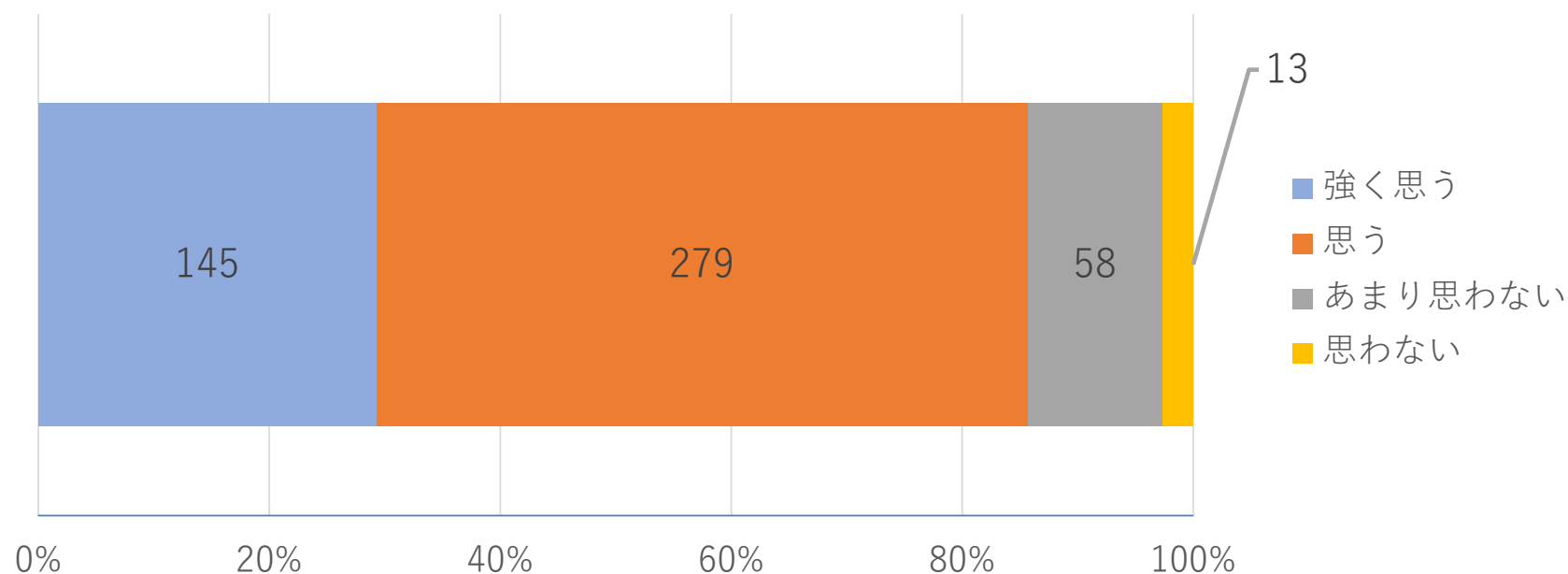


図8 我が国の文化は世界に誇れるものだと思うか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の約9割が日本文化は世界に誇れるものだと捉えている

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

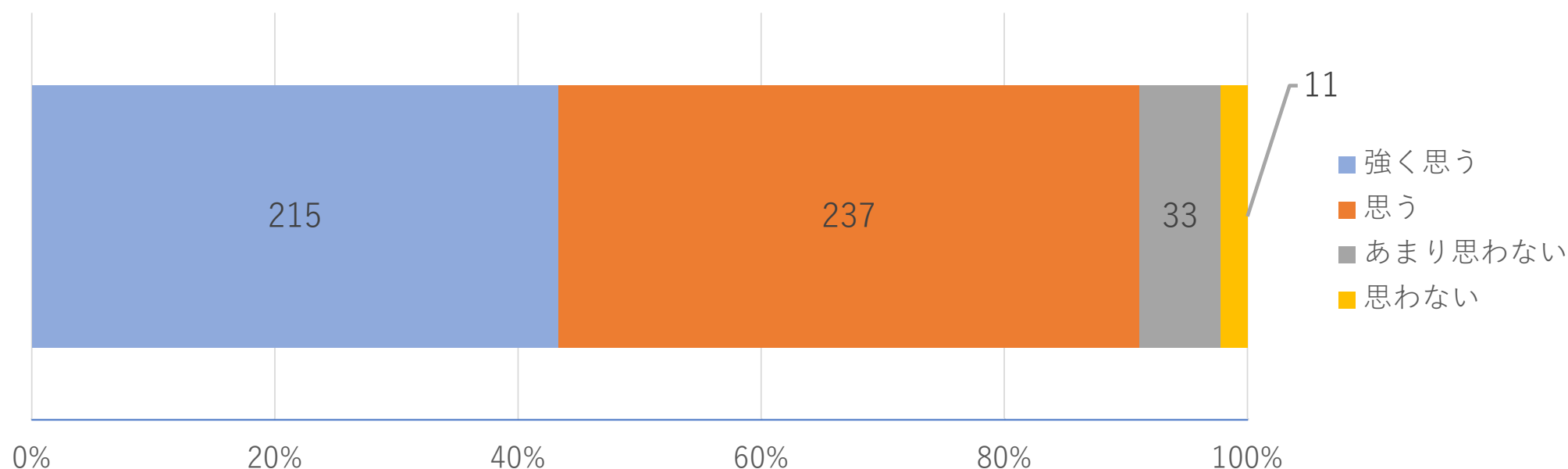


図9 我が国の文化を大切にし、将来も残していくべきだと思うか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の約9割が、日本文化を尊重し将来に継承していくべきだと捉えている

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

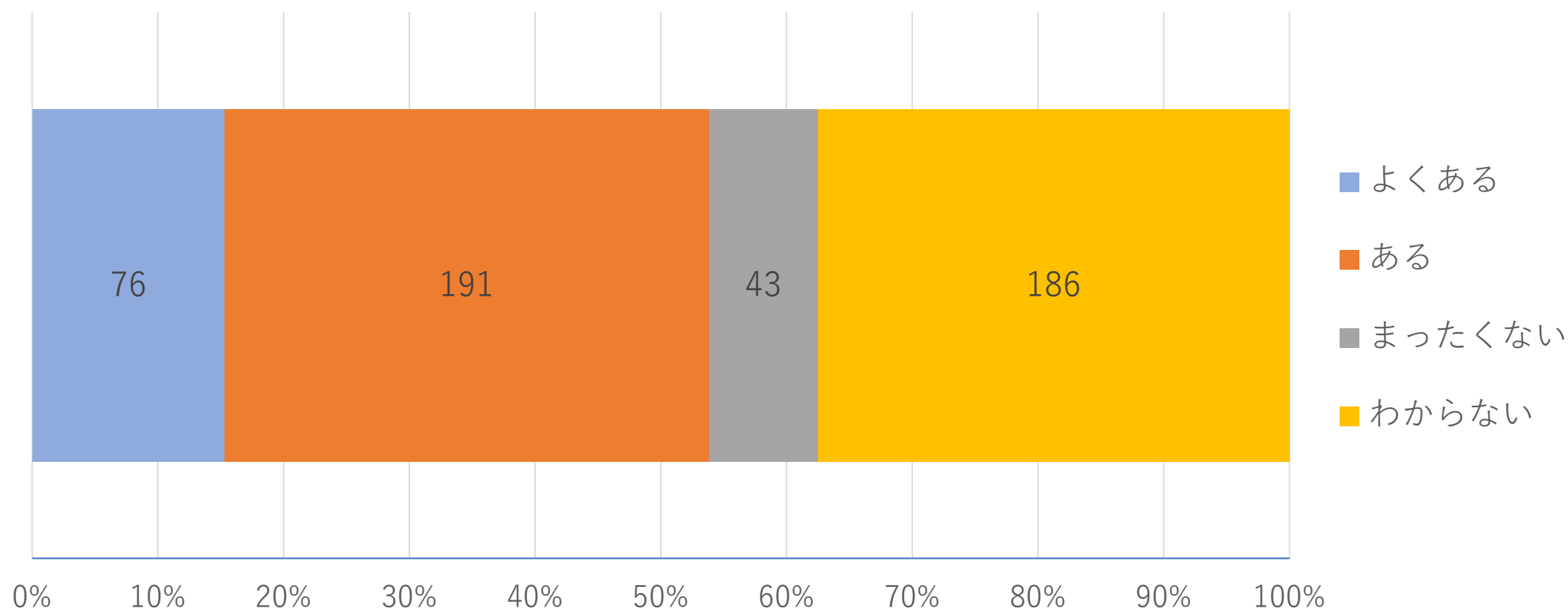


図10 我が国の伝統や文化を実際に体験したことがあるか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の約5割が伝統や文化の体験の自覚をしていない

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### ③我が国の伝統や文化の学習への興味・関心について

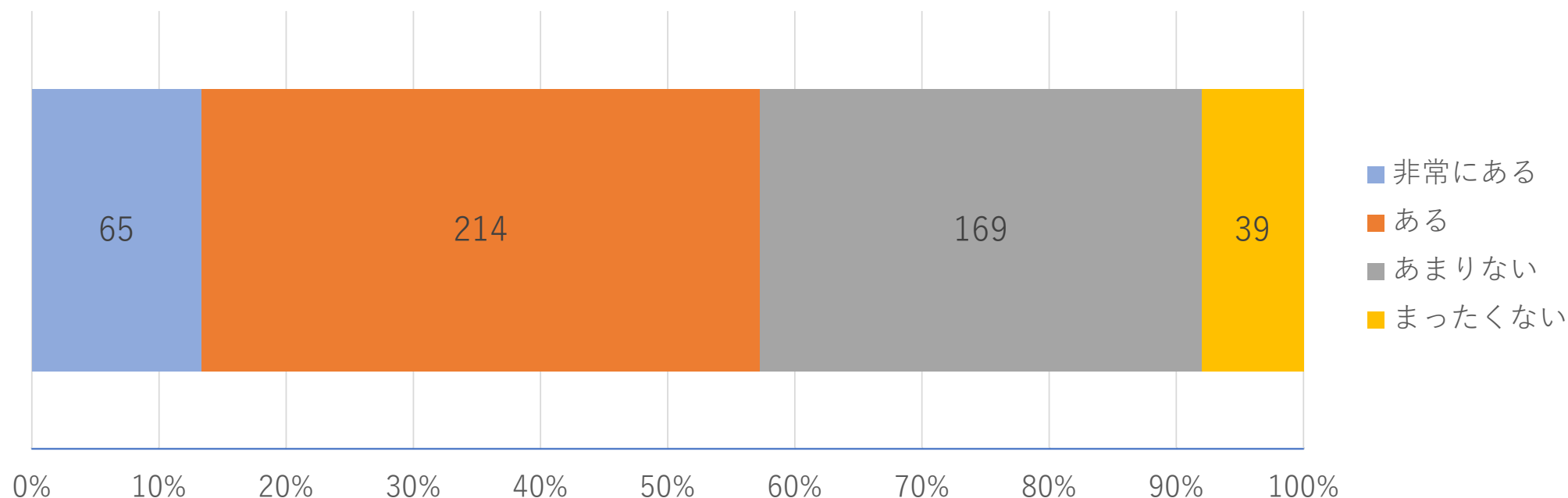


図11 我が国の伝統や文化に関する勉強に興味・関心があるか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の約6割のものしか伝統や文化の学習に興味・関心を示していない。教員は約8割が関心を示しており意識のずれが存在している

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### ④外国人に対する日本文化の発信について

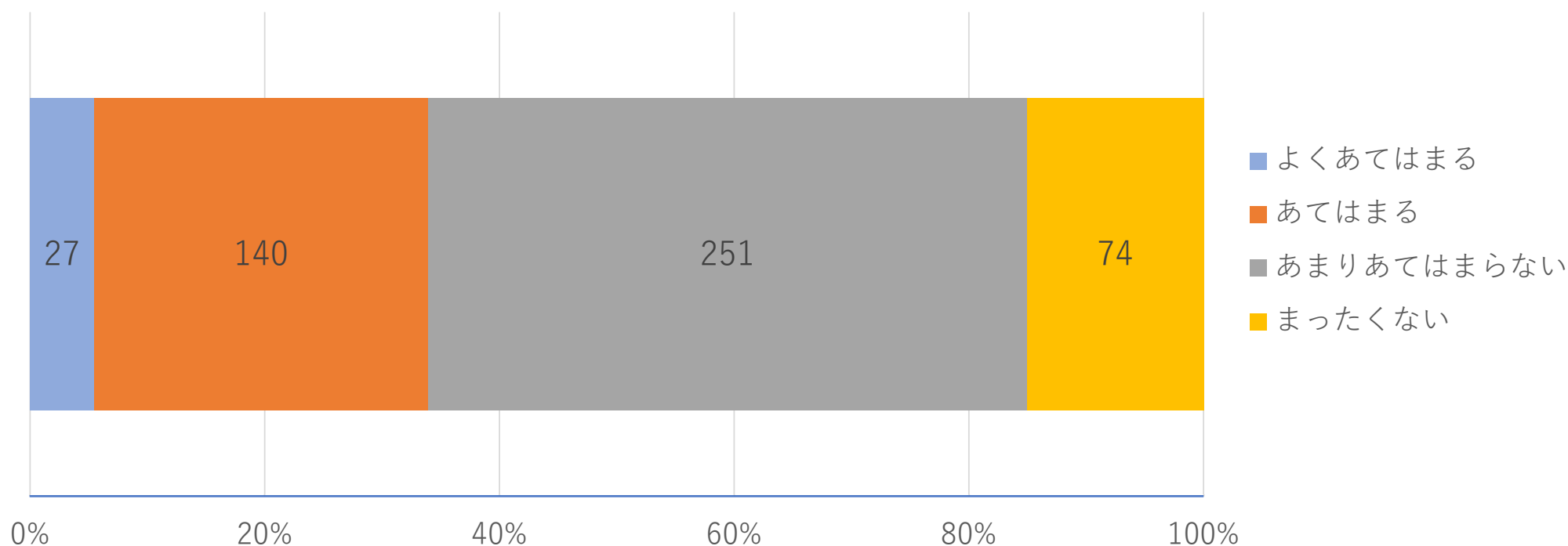


図12 日本の文化を外国人に日本語で説明できるか(小・中学生全体)

⇒小・中学生の日本文化発信力の育成が課題

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### ⑤伝統や文化の学習経験と我が国及び我が国の伝統や文化に対する意識との関連

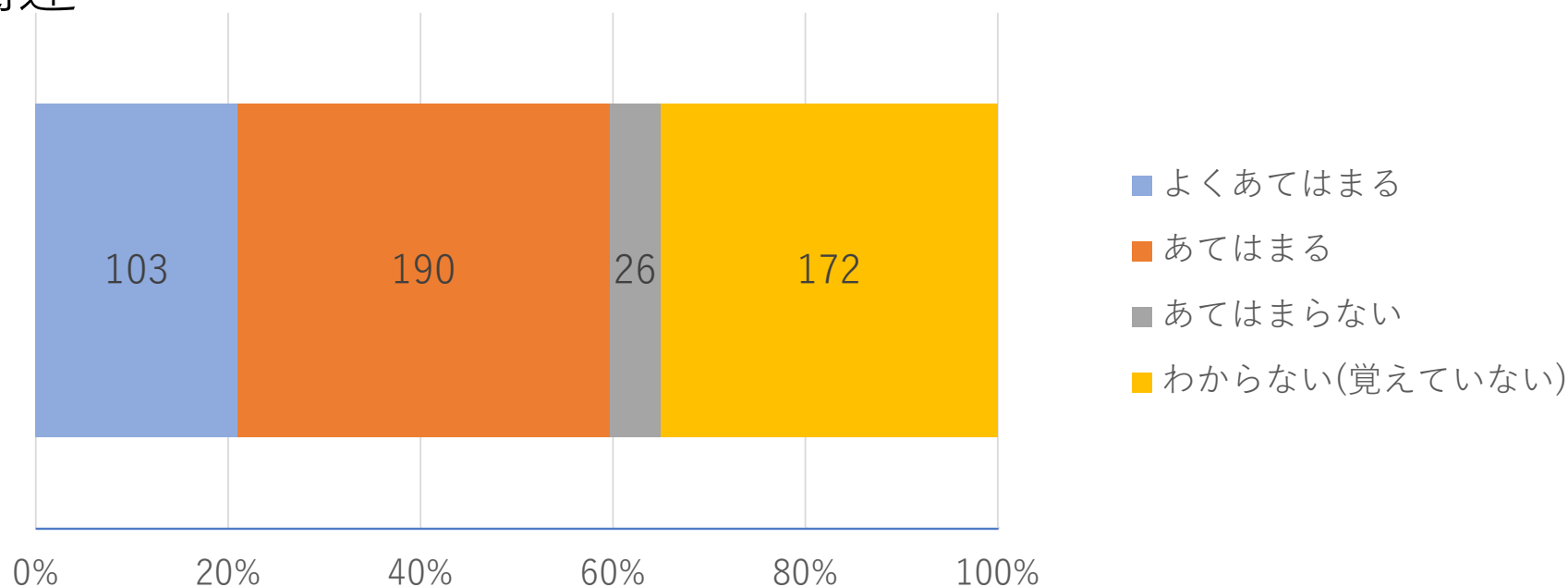


図13 学校で我が国の伝統や文化に関する授業を受けたことがあるか(小・中学生全体)

⇒伝統や文化の計画的・系統的指導学習の必要性

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

表2 伝統や文化の学習経験と我が国及び我が国の伝統や文化に対する意識との関連  
(小・中学生全体)

我が国及び我が国の伝統や文化に対する意識についての設問項目		度数	平均値	標準偏差	t 値
「日本に生まれてよかったと思うか」	A	289	2.63	0.59	3.761**
	B	197	2.4	0.76	
「日本の文化は世界に誇れるものだと思うか」	A	293	3.23	0.67	3.984**
	B	198	2.97	0.74	
「昔から伝わってきた日本の文化を大切にし、将来も残していくべきだと思うか」	A	292	3.44	0.61	4.685**
	B	198	3.15	0.78	
「日本の伝統や文化に関する勉強に興味・関心があるか」	A	289	2.84	0.72	6.581**
	B	196	2.36	0.89	
「日本の文化を外国人に説明することが(日本語で)できるか」	A	291	2.34	0.76	2.834**
	B	198	2.13	0.82	

\*\*p<0.01



## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (2)我が国の伝統や文化の教育に対する児童・生徒の意識実態

#### 表 2 の考察結果

⇒学習経験の機会を増やすことによって、我が国及び我が国の伝統や文化に関する意識のさらなる向上が期待できる

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

### (3)学校現場は我が国の伝統や文化の教育に何を求めているのか

#### ①教員は伝統や文化の教育でどのような力が育成されたと考えているか

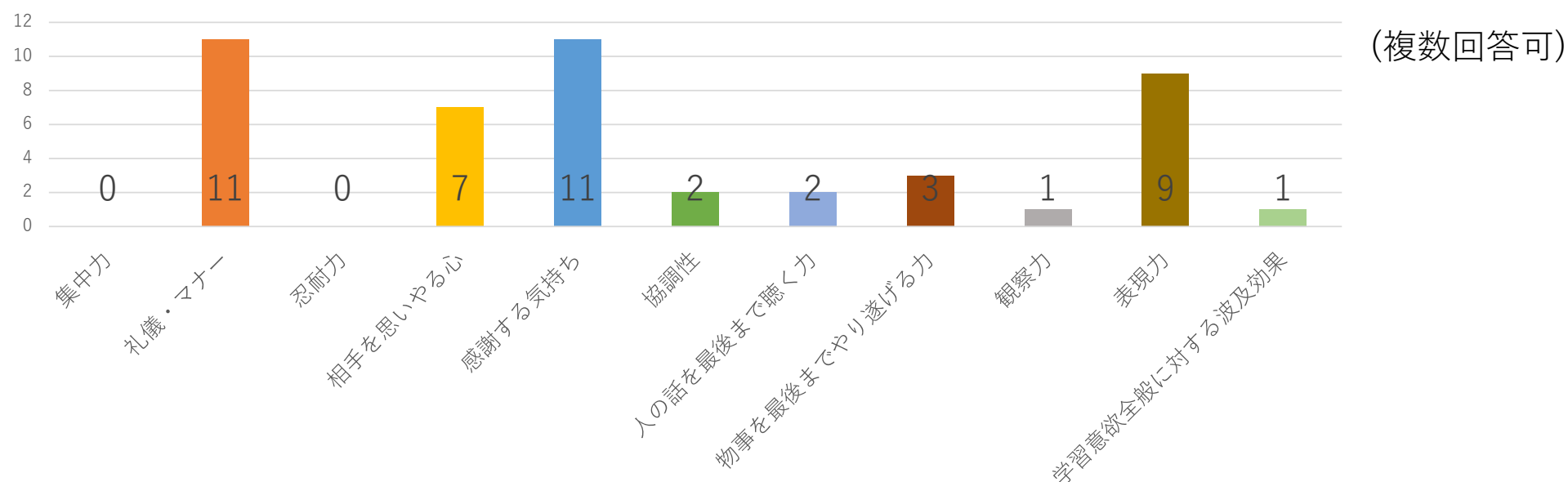


図14 伝統や文化に関する教育で児童・生徒にはどのような力が育成されたか  
(実践経験のある小・中学校教員)

⇒教員は規範意識や感謝の念、思いやりといった情意面、さらに自己表現力などが伝統や文化の教育の成果と捉えている

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

(3)学校現場は我が国の伝統や文化の教育に何を求めているのか

②児童・生徒はどのような内容を求めているのか(複数回答可)

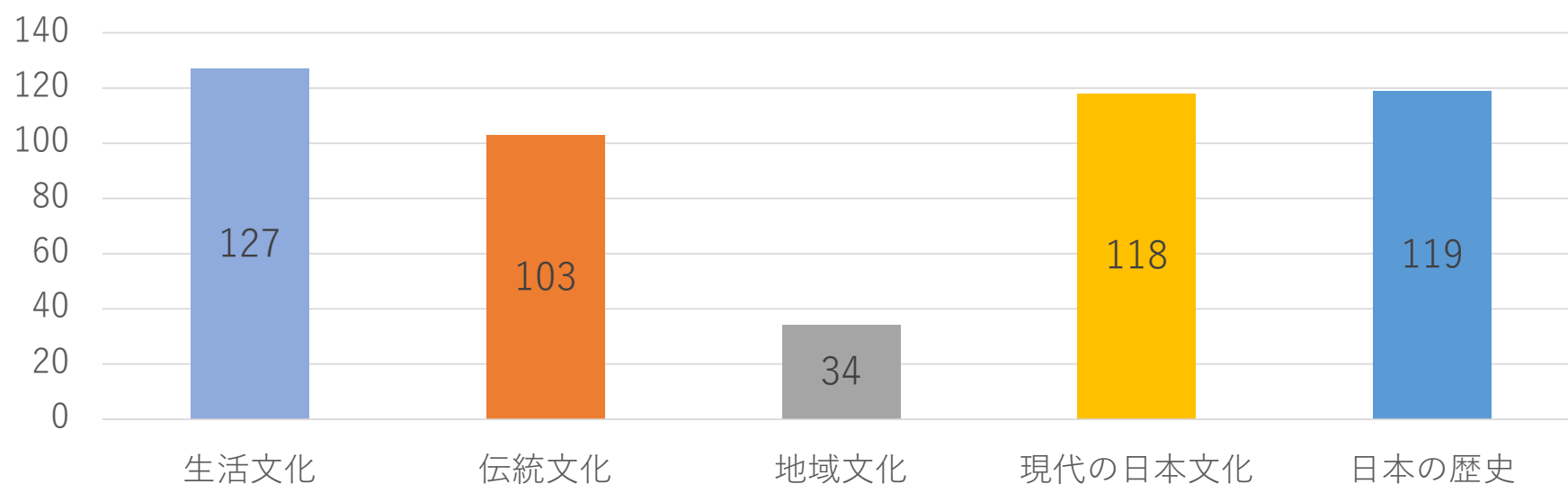


図15 どのような内容に興味・関心があるか(小・中学生全体)

⇒指導する教員側と指導を受ける児童・生徒の間に伝統や文化の内容について大きな意識差が見られる

## 2. 我が国の伝統や文化の教育に対する学校現場<sub>(小・中学校)</sub>の意識実態

(3)学校現場は我が国の伝統や文化の教育に何を求めているのか

### 伝統や文化の教育を学校で行っていくうえでの課題

- 教材開発や教材研究といった教材に関する問題
- 予算確保や校内の施設・設備に関する問題
- 指導方法に関する問題
- 教育課程上の位置づけに関する問題
- 外部指導者確保に関する問題
- 担当教員の負担感や多忙間に関する問題
- 校内の共通理解のもとでの協力体制指導に関する問題

### 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

(出典) 前掲『日本文化理解教育の目的と可能性—小・中学校の事例を中心として—』

#### (1)児童・生徒の変容

- ①我が国の伝統や文化に対する理解や尊重の気持ちの育成
- ②我が国や郷土に対する帰属意識の育成
- ③日本人としてのアイデンティティの育成
- ④生活態度の改善
- ⑤情意面の改善
- ⑥学力に対する促進効果

### 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

## (2)教員の資質・能力の向上

①カリキュラムマネジメント能力の向上

②教員間の協働体制の構築

### 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

#### (3) 学校経営の活性化

- ① 伝統や文化の学習を自校の特色ある教育活動として学校教育目標に位置付け、校外にPRすることができる
- ② 「開かれた学校づくり」にもつながる

### 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

#### **(4)学校と地域社会との連携体制の構築**

伝統や文化の学習を接点として学校と地域社会の連携体制が構築できる



### 3. 日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性

#### (5) 国際理解教育の前進

我が国の伝統や文化の教育が、結果的には世界の諸国家・諸民族との共生の態度を育成することを目標とする国際理解教育にまで発展していくことが期待できる



# 高等学校における 日本文化の教育の現状

---

兵庫県教育委員会事務局  
高校教育課長 新谷 浩一



# I 兵庫県立高等学校において「日本文化」の教育が求められた背景

## 【学習指導要領の改訂】

- 平成6年実施（平成元年告示） 高等学校社会科廃止 → 地理歴史科・公民科が新設 世界史と地理／日本史が必履修
- 平成15年実施（平成11年告示） 引き続き世界史と地理／日本史が必履修



高等学校で日本史を学ばない生徒の出現

## 【平成17年 当時の学校現場の危機感】

- 新たな学習指導要領においても、「世界史」が必履修科目となったため、この先数年間は「日本史」を学ばない生徒を卒業させていくことになる。
- 中学校段階までの歴史的分野「日本史」では、我が国の文化と伝統に関する認識は脆弱であり、歴史的思考力まで育ててはいないのではないか。
- 将来的に国際社会で主体的に生きることを目標として、近年、各校において国際交流活動を活発化させ他国の文化に触れさせているが、日本の高校生に、我が国の伝統や文化について誇りをもって語れる素地は育っているのか。

## 【平成17年 県議会からの指摘】

- 「本県の高校では、通史である日本史Bを選択している生徒は全生徒の約48%、近代史を学ぶ日本史Aは約33%が選択していると聞いておりますが、このことが意味するところは、約2割の生徒は高校で日本史を全く勉強せず、日本史Aの約33%の生徒は、明治期以前、つまり原始、古代から江戸時代までの歴史を十分に学ばないということであり、場合によって、中学レベルの日本史の知識しか持たずに社会に出ていく生徒が少なからずいると考えられることです。このことに対して、私は大変大きな不安を抱いた…」 etc…

平成17年度の兵庫県立高等学校国際交流活動状況				
	項目	実施校数	実施率	内訳
1	外国への修学旅行	34	21.4%	マレーシア11校、アメリカ6校、オーストラリア5校、シンガポール・韓国4校など
2	外国からの教育旅行の受け入れ	30	18.9%	オーストラリア9校、マレーシア8校、タイ6校、アメリカ5校など
3	外国への研修旅行（3ヶ月未満）	59	37.1%	オーストラリア42校、アメリカ10校、ニュージーランド6校など
4	外国からの研修旅行の受け入れ（3ヶ月未満）	27	17.0%	オーストラリア11校、アメリカ6校、マレーシア5校など
5	外国の教育機関との姉妹校提携	28	17.6%	オーストラリア20校、アメリカ3校など



# I 兵庫県立高等学校において「日本文化」の教育が求められた背景

## 【平成17年 兵庫県教育委員会としての受け止め】

○平成11年告示の学習指導要領に基づく高等学校地理歴史科の授業実践に際しての分析と考察

- ・小学校、中学校においては「日本史」や「世界史」の区別がない。  
そのなかで「日本の歴史」については、全時代を通じて歴史の大きな流れをとらえる学習をしている。  
「世界の歴史」については、日本の歴史と直接にかかわる事柄のみにとどめている。
- ・このため高等学校では、国際化の進展を始めとする社会の変化に対応できるよう、「世界史」を必修とし、選択となった「日本史」では、日本の歴史の展開を世界史的視野に立って考察させることで、歴史的思考力を養うことを目標として、通史的な学習を主としているのであろう。

しかしながら、「高校生段階において生涯を通じて歴史を学んでいく楽しさを身につけ、日本の文化と伝統の特色について認識を深めることによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことは重要」ではないか。



兵庫県立高等学校の生徒に「日本の文化と伝統」を学ばせたい。  
しかし、多忙な学校現場にこれを安易に任せることは無責任である。  
そこで各校が教育目標に即して、「日本の文化と伝統」を学べるような  
環境整備を県教委として行いたい。

については兵庫県として独自の教材開発をすることで学校設定科目として例示してはどうか。



## Ⅱ 学校設定科目「日本の文化」のための教材作成

### 1 学校設定科目「日本の文化」実現に向けてのフロー

平成18年4月 「日本の文化理解促進事業」に基づき、「科目『日本の文化』構想委員会」及び「科目『日本の文化』教材開発委員会」設置  
 ※ 「構想委員会」 学識経験者5名、学校長3名、教諭（地歴、英語）7名により構成  
 「教材開発委員会」学識経験者3名、指導主事1名、教諭（地歴、英語）32名、学芸員1名により構成  
 平成19年3月 教材「学校設定科目『日本の文化』」の発行及び全校配布

### 2 学校設定科目「日本の文化」のコンセプト

(1) 科目の基本的な考え方 ① 日本の歴史をベースにした学習であること。

② 日本や自らの住む地域（兵庫県）の伝統文化の学習であること。

③ 日本や自らの住む地域（兵庫県）の伝統文化の一端を体験、体得できるような学習であること

④ 衣食住といった生活レベルの文化（生活文化）も含めた伝統文化の学習であること。

⑤ 国際社会に生きる自覚と多様な文化を尊重できる態度や資質を育てる学習であること。

#### (2) 科目の目標

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

(3) 教材の基本的な考え方 ① 単元ごとに独立した構成になっていること。

② 生徒の普段の授業に活用できるものであること。

③ シミュレートできる指導例が単元ごとに整理されていること。

④ さらに深める学習、体験する学習が可能なような配慮があること。

⑤ テーマを大きく「生活文化」「伝統文化」「地域文化」「Japan Now」と4分割すること。



Ⅱ 学校設定科目「日本の文化」のための教材作成

3 (1) テーマ「生活文化」衣食住を含めた生活に密接に関わる文化を、調査や体験を通して学ぶことにより、生活文化の本質を理解する。

食文化 ～家庭に伝わる味、世界にひろがる味～

1 日本の生活は本当に米だったのか？  
(1)日本人は米以外にどんなもの食べていたのでしょうか。下の①～④の資料を参考にして書き出しましょう。

【古代】① 都の東部市で「粟餅」とよばれる、干しうどんのような餅を売っていた。『萬葉集』  
② 『萬葉集』(巻四) 村に宿して日本を旅する。日本書紀  
日本の農家は秋に稲を穫いて、大小麦を煮て、餅や、餅の類に大小麦を用いて餅を煮き、初めに餅を煮て、水で煮き、初めには水で煮て、水で煮き、一番に一年三たび煮る。『古事記』(巻四)、応永27年(1420)  
【近世】③ 『新編武蔵風土記』には38種類の餅が載っており、餅・団子・団子汁の作り方が列挙される。たとえば、大餅は、大餅を餅くちで切った餅を加えて煮き、餅の汁をかけて食す。『新編武蔵風土記』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。『新編武蔵風土記』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。『新編武蔵風土記』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。  
【現代】④ 餅は餅屋で、餅の少ない人は餅を多く食す。餅の多い人は餅を食すというように、餅の食文化は、餅の少ない人から餅の多い人へと広がっていった。『餅の食文化』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。『餅の食文化』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。『餅の食文化』(巻四) 餅の作り方を詳しく載している。

2 食文化の地域性  
(1) 県にある地域に○をつけよう。

種類	原料	特徴
米料理	大豆 米	米料理は大豆の油と米を占める一般的な食文化。大豆に対する米の割合、油の割合などによって米料理が異なる。
味噌料理	大豆 米	味噌料理は大豆により甘みと辛みとに分れる。別名「味噌料理」とも呼ばれる。
豆料理	大豆	東海三県(愛知、三重、岐阜)が中心で生産されている。味噌のある味噌料理は、三州味噌、八丁味噌、三河味噌、名古屋味噌など産地の名称で呼ばれている。

米料理・味噌料理・豆料理の使用地域を塗り分けよう

米料理 (緑色)  
味噌料理 (黄色)  
豆料理 (茶色)

(2) 餅の種類には「餅口餅」「餅口餅」「餅口餅」「餅口餅」「餅口餅」があります。県にある餅の種類に記されている表示を調べてみましょう。

品名(種類)	原料	製造販売等の氏名又は名称及び製造所所在地

江戸時代の特産品と現在の餅のメーカーの住所を比べてみましょう。何がわかりますか。

(3) 餅屋のアイスの人々の間にはかつては餅屋文化が存在していました。また、餅屋は水に漬けないことから米の比重はもとより少なく、安永(1854)年に琉球を訪れたロシアのゴンチャロフの『日本探検記』には、米を食べるのには王族貴族で、庶民は餅(きつまいも)を食べると記されています。餅屋と琉球では、いつ頃、どんな出来事があったかで、餅屋が興隆、あるいは衰退したのでしょうか。どちらかの地域を選んで調べてみましょう。

(4) 近年、餅の需要が高まっています。その理由を調べてみましょう。

2 保存食の知見  
(1) 冷蔵や冷凍、缶詰や瓶詰の技術がない時代、人は食品の保存にどのような工夫をきたしたのでしょうか。自宅やスーパーの食品売り場を調べて、伝統的な保存食のリストを作ってみましょう。



(2) これらの保存食にはどのような工夫があるのでしょうか。調べてみましょう。

3 食文化の発展  
(1) 統計局の家計調査によると、県民消費量の多い都市の7位は那覇市(全国平均の1.1倍)です(平成15～17年平均:1世帯あたり)。県民の食文化の発展に寄与しているのか、なぜ全国のトップクラスの消費量なのでしょう。地図上の県民消費量の分布を参考に考えてみましょう。

富山の昆布じゆめ  
北海道産の昆布  
千葉のちりめん  
大塚のちりめん

(2) 1958(昭和33)年に初めて発売されたインスタント麺はまたたく間にヒット商品となりました。なぜ、インスタント麺は日本人の食生活に定着したのでしょうか。日本人の食生活の嗜好の変化、生活様式の変化、経済状況の変化の3つの観点から調べてみましょう。

(3) 1971(昭和46)年には、「カップヌードル」が発売されました。これはこれまでのインスタント麺の常識をくつがえす画期的な商品でした。いったい、どんな点が画期的だったのでしょうか。調べてみましょう。

【食文化】

○稲作文化、保存食の知恵、食文化の地域性、食文化の受容と変容

【衣文化】

○着物の歴史、着物のTPO、着物の色と文様

【住文化】

○伝統的な日本の家屋、和室のつくり

【年中行事】

○季節ごとの節目

【通過儀礼】

○人生の節目

【あそび】

○伝統的な日本の玩具

【自然と生活】

○自然災害と生きる知恵

※ 現行の学習指導要領において赤字は家庭に記載あり。緑字は地理歴史「地理総合」及び理科「科学と人間生活」に記載あり





**3 (3) テーマ「地域文化」** 自らが住んでいる地域の伝統芸能や伝統工芸等を、体験や地域教材等を活用して学ぶことにより、地域文化の価値を伝統文化の継承と創造として関連付けて理解する。





## Ⅱ 学校設定科目「日本の文化」のための教材作成

### 3 (4) テーマ「Japan Now」 現代日本の文化的諸相を、国内外の多面的な視点から学ぶことにより、日本及び自らが住んでいる地域の伝統・文化を、異なる文化的背景を持った人々に積極的に伝え、交流しようとする態度を身につける。

#### マンガ大国日本 ～日本のマンガ・アニメ～ 解説・解答例

##### 授業の展開 1

###### 資料 1

###### ① 広辞苑では

- ② manga Japanese, comic, from man-involuntary, aimless + ga-picture
- ③ anime … 日本のアニメーションをこのように呼び、日本以外でつくられたアニメーションと区別する。
- ④ animation … ラテン語の「anima」を語源とするアニメーション
- ⑤ ジャパニメーションって何？
- ⑥ Japan + animation からくる言葉。海外ではこうよばれることもあります。

##### 授業の展開 2

###### (1) 絵巻物はマンガ・アニメの先駆

###### ① 法隆寺『捨身飼虎図』

日本史の図説によく取り上げられるものです。異時間図の先駆的作品です。そこには、お釈迦様、そのお釈迦様が落ちてくるところ、そして倒れるところが描かれています。

###### (2) 近世から近現代 ～民衆が楽しむ時代～

参考 鳥羽絵 『蘭本手鑑』 犬岡 春下

参考 『トバエ』 (明治 20 年 2 月 15 日)

G. ビゴー (魚釣り遊び『漁夫の利』)



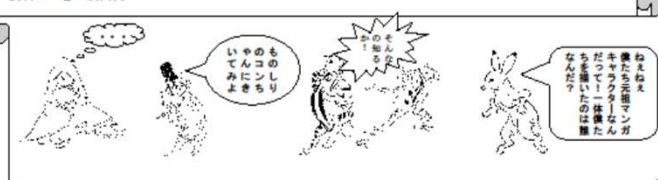
鳥羽絵は江戸時代中期に大坂で流行った滑稽な絵である。手足が異様に細長く、顔が簡略化され、誇張と動きがある。この誇張と動きに現代の漫画に通じるものがあるといわれる。

兵庫県立歴史博物館所蔵



日本美術研究を目的に来日したビゴーは、当初、浮世絵の技法を学んだ。しかし、それは絵師・彫師・摺師三人による共同作業という高度な技術であることを知り途中で断念する。そして、フランスで習得した技法で日本を描きはじめる。ビゴーは数多くの風刺雑誌を出版したため、漫画家というイメージが強い。この作品は日清戦争直前の朝鮮をめぐる日清の対立とロシアの野心を風刺し有名な作品である。

##### 資料 3 ② 展開例



Hyogo Prefectural Board of Education

兵庫県教育委員会

##### 授業の展開 3 マンガ・アニメ ～「文化」の発信のむずかしさ～

###### (1) 『鉄腕アトム』 参考写真を拡大



###### 海外版『鉄腕アトム』

取材協力 宝塚市立手塚治虫記念館

フランス語版 英語版 ドイツ語版 (右開き)

日本語版 台湾版 韓国版

##### 『鉄腕アトム』について (手塚治虫 1990 図録より引用 編集東京国立近代美術館) 参考資料

- ・手塚治虫の作品のなかで最もよく知られたこの作品は、アトムが脇役として登場する『アトム大使』をも含めれば、実に 18 年にもわたり、描き続けられたものである。特に、昭和 38 年に国産初のテレビアニメとして放映されてからは、アトムは国民的とも言える人気を得るようになった。
- ・作品は一話完結で 69 本のストーリーからなっており、手塚の代表作にふさわしく単行本も、今日まで 10 種類が刊行されている。しかし、長期にわたる作品のため、描きかえ改編も多数数見られる。

##### 資料 4 『鉄腕アトム』より



Q 左のほうが、初版のものです。どこが違いますか？

###### 資料 4

◎座卓の上のお菓子に注目してください。左、初版の作品には、お菓子がありません。右にはコーヒーカップのようなものがのっています。またここでは紙面の関係であげることができませんが、初版本では、湯飲み茶碗がのっています。手塚氏自身のこだわりから、時代とともに修正が加えられています。ここでお母さんの習物については、左は小学校の卒業式の後の場面であるため、このようになっています。講談社版と光文社版を実際に見比べてみると改編された箇所があることがわかります。

###### 資料 5

◎この場面は、手塚氏自身がマンガに登場し、場面の解説を加えているところである。このマンガの時代が 2013 年の東京であること紹介した上で、ヒゲヤジのセリフがはいります。「いまは未来でしよう。ここは未来都市なんだろう？」そして、資料 5 左のコマがきて、次のように言っています。(日本語版でのセリフ) 「そんなに、なぜわしアゲタなんかはいて、こんなヨレヨレの背広を着なきゃなんねえんだい」右のコマのセリフ 「どうでもいいけどわしの家ぐらいいはもう少しなんとかなってほしいもんだい！」フランス語版でもほぼ同じセリフとなっています。◎手塚氏は『ぼくはマンガ家』の中で、「ぼくの原作のアトムは、なにしろそのまま使えないのである。ゲタをはいた人物や、タタミの家なども出てくるので」と述べています。しかし、資料 5 では、ゲタ、タタミなど、日本の文化をそのまま伝えていることがわかります。

#### 【日本のマンガ・アニメ】

○漫画とアニメーションの違い

#### 【映画・音楽】

○日本映画の歴史

#### 【世界の中の日本人】

○多文化共生、国際社会における日本の役割、

国際社会での日本人の活躍

#### 【世界の中の日本語】

○「もったいない」という言葉

#### 【日本のテクノロジー】

○江戸時代のからく人形からロボットへ

#### 【日本の中の多様な文化】

○多文化理解



## Ⅱ 学校設定科目「日本の文化」のための教材作成

### 3 (4) テーマ「Japan Now」

#### 24 映画・音楽 ～日本映画の衝撃&日本発・世界のメロディー～ 配当2時間

##### 1 授業のねらい

日本映画は100年に及ぶ歴史の中で多くの優れた映画人を輩出し、彼らは伝統文化と映画を融合させ、外国映画とは異なった独自のスタイルを創出・発展させてきました。特に小津安二郎(1903-63)と黒澤明(1910-98)両監督作品は称賛と驚嘆をもって世界中に迎えられ、日本映画の芸術水準の高さを海外に知らしめただけでなくあらゆる国の映画作家に多大な影響を及ぼしました。また、西洋音楽一辺倒だった時代にも、日本の音楽の中には外国で大ヒットし、今でも人々の間で愛され、ロサされている曲があります。

ここでは、日本文化としての「映画」と「音楽」の脈絡に触れ、世界映画史上の最高峰といわれる『七人の侍』(黒澤明監督 1954年 東宝)を分析することによって、何故日本映画が外国でも熱狂的に支持され、模倣されるほどまでに影響を与えたのかを考察します。

(1)『七人の侍』(または『SUKIYAKI』以下同記)を通して日本映画(音楽)に関心を持ち、意欲的に調べることができる。 【関心・意欲・態度】

(2)『七人の侍』が何故今なお異なる文化背景を持つ国や人々に影響を及ぼしているのかを考察できる。 【思考・判断】

(3)『七人の侍』など黒澤監督作品を鑑賞したり、映像資料を収集・検証することによってその主題や芸術性を適切に発表できる。 【資料活用の技能・表現】

(4)『七人の侍』など黒澤監督作品の持つ「日本のこころ」「真の日本人」「日本の旋律」に気づき、世界の人々に共感を与えてきた役割を理解する。 【知識・理解】

##### 2 授業の展開

1 日本映画は独自のスタイルを創出・発展させてきました。  
1896年に映画が初めて日本で紹介されるや否や、歌舞伎・芝居・能・狂言・落語・講談などの日本の伝統文化と融合し、日本映画はチャンバラ映画、忍術物、怪獣物、怪獣物、母物、メロドラマ(すれ違いドラマ)、任侠映画など世界に類例を見ない独特なジャンルを生み出し、外国映画に少なからぬ影響を及ぼしてきました(チャンバラ映画は香港カンフー映画、松竹メロドラマは韓流ドラマの源流となり、怪獣物の流れを受け継ぐ日本のホラーは今や世界を震撼させ、ゴジラやガメラは世界を席巻しています)。中でも「日本の美学」の神髄と云われた小津と「世界で最も有名な日本人」として知られた黒澤は各国の映画人に映像表現のみならず、映画作りの基本精神そのものにも影響を及ぼしてきました。

2 日本映画は外国映画に大きな影響を与えてきました。  
ここでは日本映画(音楽)についてのワークシート(A)と『七人の侍』についてのワークシート(B)を取り上げて、質問形式により日本映画がいかに魅力的であるか、またそれらがどのように外国に影響を与えたかを考察します。ワークシートの記入だけでなく、後で生徒に発表させたりグループで討論させることも考えられます。

(1) ワークシート(A)の指導に当たって

① 日本映画に親しもう。

一般的に、高校生は日本映画より外国映画を、映画館より自宅でDVD(ビデオ)を鑑賞する方を好むと言われています。その一要因として、単に日本映画に対する「食わず嫌い」であったり、映画館にほとんど足を運んだことがなく、大スクリーンや大音響効果を体験したことがないためであると考えられます。質問(1)～(3)を通して日本映画の素養を培わせたり、劇場での映画鑑賞の素晴らしさを再認識させます。

② 日本映画を知り、そこに込められた日本的な精神世界を理解しよう。

小津・黒澤に代表される日本映画は独自のスタイルを生み出し、国際的に高く評価されてきました。小津はあらゆる監督の中で最も日本的な監督と称され、「日本の美学」の神髄と云われるまでに磨き上げられた視覚美によって世界を魅了しました。一方、黒澤は彼の精神の具現者である三船敏郎という格好の俳優を得て日本の「侍」のイメージを作り上げ、「真の日本人」を映像で表現しています。小津・黒澤以降も日本映画界には新しい才能が次々と開花し、彼らの斬新な作品は世界で大いに注目を浴びています。

日本の映画人口(観客動員数)は邦画よりも洋画の方が長い時代が一時長く続きましたが、最近になってこの比率が逆転し日本映画に若者の目が向きつつあります。このような現象に相応しての多彩な催しが企画されています。質問(7)を通して日本映画をより身近なものに感じさせます。

④ 海外でヒットした日本の楽曲を探ってみよう。

日本の近代音楽は映画と同様に演歌からJポップスまで多彩なジャンルを生み出してきました。ここでは『SUKIYAKI』を中心に世界に通用する音楽を楽しみながら分析していきます。質問(8)～(10)で挙げられている曲などを実際に教室で聴かせるなどの実感できる学習が望ましいでしょう。

(2) ワークシート(B)の指導に当たって

これは『七人の侍』を以前に観たり聞いたりしたことのある人を前提としたものですが、この映画について全く知らない生徒には『七人の侍』の概説(DVD収録資料3)などを参考にして分かるものだけを答えてさせてみましょう。できれば放課後など事前にDVD(ビデオ)で全編もしくはラストの合戦シーンだけでも鑑賞するのがベストです。

① 7人の侍の生き方や個性について考察しよう。

黒澤は「無償の行為のために命をかける」という日本人が培ってきた美意識を映像でダイナミックに表現しました。また、日本人像を7人の役柄に個性豊かにキャスティングし、世界に誇れる日本の侍の原型を創出しました。

② 本物の時代劇を体感しよう。

黒澤は徹底的な時代考証から始め、歌舞伎の伝統を引き継いだ舞踊時代劇の脱却を目指し、全く新しい角度からリアリズムに満ちた時代劇を作り上げました。また、集団殺陣シーンではリアル感と躍動感を出すために様々なテクニクが工夫されています。このフィルムはCGなどなかった時代に手造りで撮影されたことを強調します。

③ 何故、海外で高い評価を受けたのかを分析してみよう。

全編にみこなるダイナミズム、ドキュメントを見ているような臨場感、鮮烈なカメラ・テクニック、日本時代劇に西部劇を取り入れた面白さ、どれを取ってもアクション映画としては超一流であることは言うまでもありませんが、世界が最大級の賛美を惜しまなかったのは、人間の生き方、登場人物一人ひとりのきめ細かい描写、黒澤流のヒューマニズムなどが映画に盛り込まれていたからでした。

④ 他の黒澤作品についても知ろう。

黒澤作品はいずれも古びることなく依然と日本映画史に輝いています。しかも娯楽性の強いものが多く現在の高校生で充分に楽しめるものばかりです。

映画の場面より 写真1

写真2

写真3



3 日本映画(音楽)は世界に発信を続けています。(まとめ)

昭和30年代に黄金期を迎えた日本映画は一時期低迷期があったものの、現在では新しい才能の出現によって日本文化の紹介と発信、国際理解の一翼を担っています。また、音楽ではJポップス、Rポップス(琉球音楽とポップスをミックスした音楽)が今や全世界に向けてエキサイティングに発信を続けています。

### 【日本のマンガ・アニメ】

#### ○漫画とアニメーションの違い

### 【映画・音楽】

#### ○日本映画の歴史

### 【世界の中の日本人】

#### ○多文化共生、国際社会における日本の役割、国際社会での日本人の活躍

### 【世界の中の日本語】

#### ○「もったいない」という言葉

### 【日本のテクノロジー】

#### ○江戸時代のからくり人形からロボットへ

### 【日本の中の多様な文化】

#### ○多文化理解



## II 学校設定科目「日本の文化」のための教材作成

### 4 工夫した点

単に「学ぶ」ことで終わらずに、我が国の文化・伝統を外国の方に紹介できるように主なQ&Aを英文で掲載



#### ● 伝統文化

##### 8 能・狂言

**Q: In a word, what are *noh* and *kyogen*?**

*Noh* and *kyogen* are traditional forms of Japanese musical drama that have been performed since the 14<sup>th</sup> century, and they have had a great influence on *kabuki*. The beauty of the *noh* masks and costumes makes the *noh* performances even more enjoyable. Recently *noh* has been gaining popularity again because of a new young generation of stars. Most visible among them is Izumi Motoya, who is sometimes referred to as the Prince of *Noh*. In the intervals between *noh* plays, *kyogen* is often performed. Compared with *noh*, *kyogen* has a common touch. In contrast to *noh*, in which songs and dance have important roles, dialogue is the central part of the comical performances of *kyogen*.

##### 9 茶道

**Q: I've been invited to a tea ceremony. Will you tell me about the etiquette I should follow?**

First, when you enter the tea house, you have to sit on your heels on the *tatami* floor. Then, enjoy watching how the host prepares a bowl of powdered green tea for you. Also, you should enjoy the beauty and simplicity of the tea house. The beauty of the tea house includes seasonal decorations using arranged flowers and a hanging scroll called *kakejiku*. When a small sweet is served, you should eat from special paper called *kaishi*. Then the bowl of tea is served to you. You should raise the bowl with both hands, and rotate the bowl to avoid drinking from its front. After drinking the tea with two or three sips, remember to wipe the rim, and to rotate the bowl to its original position. Throughout this process, you should relax and enjoy the atmosphere. Try to keep the conversation to a minimum because enjoying *wabi* (quiet elegance) is very important in a tea ceremony.





# Ⅲ 学校設定科目「日本の文化」の現状

## 1 平成19年度の教材の活用方法の指示

- 新たに学校設定科目「日本の文化」を設定し、その教材として活用。
- すでに各学校で設定する学校設定教科・科目等で活用。
- 総合的な学習の時間において活用。
- 海外修学旅行、研修旅行の事前研修において活用。

➡ 全県立高等学校で展開

## 2 令和5年度の教材の学校設定科目「日本の文化」等の実施状況

- 各学校のスクールミッション等に応じて、教科「地理歴史」や「家庭」、学校設定教科「日本の文化」等において、学校設定科目等として、それぞれ実施。

兵庫県立高等学校「学校設定科目『日本の文化』」等による授業					
	学校名	課程	教科名	科目名	単位数 届出年度
1	神戸甲北	全	地理歴史	神戸の研究	2 H26
2	須磨友が丘	全	地理歴史	神戸学	2 H28
3	尼崎	全	地理歴史	日本の文化	2 H26
4	伊丹西	全	地理歴史	日本の文化	2 H25
5	西宮	全	地理歴史	日本の文化	2 H26
6	鳴尾	全	地理歴史	日本の文化	2 H26
7	宝塚東	全	地理歴史	日本の文化	2 H25
8	芦屋	全	地理歴史	日本の文化	2 H26
9	国際	全	国際（学校設定教科）	日本の文化	2 R5
10	有馬	全	地理歴史	日本文化	2 H26
11	吉川	全	地域に学ぶ（学校設定教科）	日本の文化	2 R5
12	北条	全	地理歴史	日本の文化	2 H29
13	播磨農業	全	地理歴史	兵庫の歴史	2 H30
14	松陽	定	地理歴史	日本の文化	1 H25
15	姫路東	全	地理歴史	日本の文化	2 H31
16	香寺	全	日本の文化	日本の文化	2 H27
17	神崎	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
18	夢前	全	地理歴史	日本の文化	2 R4
19	伊和	全	地理歴史	日本の文化	3 H27
20	篠山東雲	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
21	但馬農業	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
22	武庫荘総合	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
23	姫路商業	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
24	錦城	定	地理歴史	日本の文化	2 H28
25	西脇北	多	地理歴史	日本の文化	2 H25
26	芦屋国際中等	全	地理歴史	日本の文化	2 H27
27	神戸甲北	全	家庭	生活文化の研究	2 H27
28	香寺	全	体験	和の文化	2 H30
29	佐用	全	家庭	伝統文化	2 H27



# Ⅲ 学校設定科目「日本の文化」の現状

## 3 現在の学校設定科目「日本の文化」の年間指導計画例から見えるメリット

- 複数の教科の教員が、それぞれの専門分野を活かしながら、  
チームとして指導できること。

【例】令和5年度 兵庫県立香寺高等学校

学校設定教科『日本の文化』 学校設定科目『日本の文化』

地歴科教員と家庭科教員とで分担して担当

年間指導計画				
教科名	日本の文化	科目名	日本の文化	単位数 2 単位
年間学習目標				
日本および自らが住んでいる地域の文化的価値についての理解を深め、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養い、文化を伝承していく力を身につける。				
評価規準				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解	
伝統文化に直接触れることにより、日本固有の文化に関心を持ち、国際社会に主体的に生きる人間としての責任を果たそうとする。	伝統文化に関する調査研究・発表などを通して、生活・文化の地域的特色を多面的に・多様に考察している。	和菓子の調理や茶道のお点前、浴衣の着付けや和太鼓演奏など、日本固有の文化に関する技能を修得している。	日本固有の生活・文化の地域的特色についての基本的な事項を理解し、その知識を身に付けている。	
指導計画				
学期	学習内容	時間	学習目標	学習活動（評価方法）
前期	「食文化」「衣文化」「住文化」「年中行事」「通過儀礼」「伝統的な遊び」等について	35	衣食住を含めた生活に関わる文化を、調査や実習等を通して学ぶことにより、日本の文化の本質を理解させる。	ワークシートを活用して、衣食住などの生活文化の成り立ちと特徴を理解する。日本の「和菓子」や「郷土玩具」について調査し、発表する。 【学習態度・取り組み】 【発表態度・内容】 【7月考査】 【提出物】
後期	「茶道」「華道」「書道」「神社・仏閣」「伝統工芸」「和太鼓」「おせち料理」等について	35	日本の伝統的な芸術や文化等について実習を伴って学ぶことにより、その文化的価値と意義を理解し、それらを継承・発展させる態度を養う。	ワークシートを活用して、日本の伝統的な芸術等について理解する。「お祭り」や「茶道」について調査し、発表する。 【学習態度・取り組み】 【発表態度・内容】 【12月考査】 【提出物】



## Ⅳ 「日本文化」の学びを取り戻しつつある現行の学習指導要領

### 【学習指導要領における「伝統や文化に関する教育の充実」についての改善事項の変遷】

○平成6年実施（平成元年告示） 高等学校社会科廃止 → 地理歴史科・公民科が新設 世界史と地理／日本史が必修

○平成15年実施（平成11年告示） 引き続き世界史と地理／日本史が必修

- ・歴史教育（世界史における日本史の扱い、文化の学習を充実）、宗教に関する学習を充実（地理歴史、公民）
- ・古典、武道、伝統音楽、美術文化、衣食住の歴史や文化に関する学習を充実（国語、保健体育、芸術「音楽」「美術」、家庭）

○令和4年実施（平成30年告示） 地理総合と歴史総合が必修

- ・我が国の言語文化に対する理解を深める学習の充実（国語「言語文化」「文学国語」「古典探究」）
- ・政治や経済、社会の変化との関係に着目した我が国の文化の特色（地理歴史）、我が国の先人の取組や知恵（公民）、武道の充実（保健体育）、和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実（家庭）

【参考】文部科学省『高等学校指導要領の改訂のポイント』中の「教育内容の主な改善事項」

### 【授業実践に際して懸念されること】

より具体的な内容が各教科に散りばめられたものの、実際の授業に落とし込むにあたっては

- ・全体的に教えるべき内容が多いカリキュラムの中では、総授業時間の枠の中で、比較的軽微な取り扱いとなってしまうことがある。
- ・各教科担当の専門性によっては学びが深まらず、入口の提示に留まる可能性がある。
- ・多方面に散らばったため、日本文化の全体像といったものまで理解することは難しい。



「文化と伝統」についての学び  
を深めることの難しさ



# 「終わり」にかえて

## 【文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議（第1回）を受けての情報提供】

当日資料26頁の「主な検討事項（案）」から

### 1 これからの社会で求められる文化芸術教育の在り方

- 児童生徒が主体的に課題を自ら発見し、多様な人と協働しながら課題を解決するSTEAM教育との関係において、芸術教科における学びはどのように位置づけられるか。

兵庫県では令和2～4年度に「STEAM教育実践モデル校事業」を実施し、①文理融合型のカリキュラム開発、②STEAM学科の設置、③文理融合型カリキュラムマネジメントの全県展開、を目標として研究開発に取り組んできた。その成果として令和6年度から普通科新学科としてのSTEAM学科を4校に設置することとしている。その4校のうち、県立明石高等学校は普通科と美術科を設置している学校であり、現在、美術の学びを取り入れたSTEAM学科設置の準備を進めている。【15頁 参考①】参照

### 1 これからの社会で求められる文化芸術教育の在り方

- 学校教育における現代的な映画・アニメーション・ゲームといった、日本のメディア芸術の取扱いについてどうあるべきか。

【8～9頁】参照

### 2 本物の文化芸術体験とICTの活用による効果的な学びの在り方

- 学校等において、音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等を実際に鑑賞・体験することは、どのような教育的意義があり、子供達にどのような教育的効果を与えているか。

【16頁 参考②】参照



## 明石高校の理数探究類型が STEAM 探究科(単位制)に生まれ変わります！

### ● STEAM教育とは

Science (科学), Technology (技術), Engineering (工学), Art (芸術), Mathematics (数学) を総合的・横断的に学ぶことで創造力・課題解決力を養います

令和6年度設置予定 1年次40名



### ● 明高のSTEAM教育とは

#### STEP1

- ・企業と連携し、実社会で実装されている道具としての先端技術を学ぶ

#### STEP2

- ・データや実証に基づき、客観的根拠や特殊性を見出して課題を発見する

#### STEP3

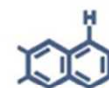
- ・学んだ技術とデザイン力を活かし、課題解決のための探究を深め、モデルやプランにまとめる



学びたい なりたい  
をデザインする

### ● 探究活動の例

- ・ヘルスケアの進化をデザインする価値の高い新しい検査・技術の創出
- ・明石公園の植生も活かした空間デザインやGIS等技術を応用したまちづくりの創出
- ・資源を有効に活用し、生活に役立つ新機能を持った物質・先端技術の創出
- ・美しさや使いやすさを実現する文字・デザイン・設計等の創出
- ・樹脂部品関係の新たな設計・デザインの創出



#### 連携企業等

- ・シスメックス
- ・理化学研究所
- ・千代田テクノ
- ・モリサワ
- ・ぎしる
- ・NPO法人再生可能エネルギーあかし
- ・兵庫県立美術館
- ・兵庫県公園協会
- ・SPring8 など

#### 連携大学等

- ・大阪大学
- ・神戸大学
- ・慶應義塾大学
- ・甲南大学
- ・西オーストラリア大学
- ・西オーストラリア州 モーリー高校
- ・明石市 など

### ● 単位制とは

- ・学年による教育課程の区別がなく、決められた単位を修得すれば卒業が認められる
- ・将来の進路や興味関心等に応じた科目選択が可能である
- ・少人数授業で手厚いサポートを受けることができる
- ・ガイダンス（科目選択説明や面談）を通して自分の時間割が組める
- ・難関大学への進学など、一人ひとりの夢・目標を実現する

### ● 単位制を活かした科目など

- ・STEAM探究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ
- ・数学探究Ⅰ/Ⅱ
- ・データサイエンス
- ・グローバル探究Ⅰ/Ⅱ
- ・デザイン特講Ⅰ/Ⅱ
- ・サイエンス英語Ⅰ/Ⅱ
- ・サイエンス探究Ⅰ/Ⅱ
- ・プロジェクトⅠ/Ⅱ
- ・プログラミング基礎/実践 など





## 令和5年度青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～実施要項

### 1 趣 旨

人々をいやし、明日への希望や生きる勇気をもたらす芸術文化は、社会性や豊かな人間性など、子どもたちの「生きる力」を培うための大切な体験である。そこで、中学1年生を対象に、学校を離れ、阪神・淡路大震災の文化復興のシンボルとして西宮に設立された本格的な舞台芸術の創造拠点「兵庫県立芸術文化センター」において、「わくわくオーケストラ教室」を実施する。

この事業では、一度は耳にしたことのあるクラシックの名曲を取り上げ、曲について詳細な説明や各楽器の音色や演奏方法の詳しい紹介等を通してオーケストラの基礎について学ぶとともに、生のオーケストラの演奏を聴くだけでなく、何らかの形で参加するという体験を通じた鑑賞会を行うこととする。このような鑑賞体験を、中学1年生に豊かな情操や感性を身に付けるきっかけとするとともに、演奏された音楽を育んだ民族の歴史を知ることなどにより、他国の文化に対する理解や寛容の心の醸成にも資する。

### 2 実施対象

公立中学校1年生・中等教育学校1年生、義務教育学校後期課程7年生、特別支援学校中  
学部1年生及び参加を希望する国立大学附属中学校・中等教育学校1年生、私立中学校1  
年生

### 3 実施場所

兵庫県立芸術文化センター大ホール 等

### 4 公演回数等

- (1) 年間40回の公演を実施する。
- (2) 時間帯については、原則として以下のとおりとし、約70分の公演とする。
  - ・午前の部 開場 9:45 開演 10:30～
  - ・午後の部 開場 13:45 開演 14:30～

### 5 実施内容

兵庫県立芸術文化センター大ホール等において、「兵庫県立芸術文化センター管弦楽団」の演奏による鑑賞教室を行う。

#### (1) ホール体験教室

- ア エントランスからホールに入るまでのホールの構造、オーケストラを構成する楽団員のステージへの登場の仕方も含めた音楽鑑賞の仕方についての体験をする。
- イ 施設の概要を知るとともに、効果音や照明などステージを支えている機能について体験する。

#### (2) 鑑賞教室

- ア 楽曲の紹介
  - 楽曲の背景となる文化・歴史について映像等を活用して具体的に理解をうながし、個々の楽器の演奏の仕方や音色の特徴などを臨場的に体験することで、音楽の多様性を直接感じ取る。
- イ 楽器の紹介
  - 弦楽器、管楽器、打楽器等の種類や奏法について学ぶことを通して、オーケストラがどのようにして全体として演奏ができるのかを体験する。
- ウ 鑑賞（一度は聞いたことのあるクラシックなど）
  - 迫力ある本格的な生の演奏の楽しさを体験するとともに、例えば、手を使ったり、声を使ったりするなどによる音楽表現等といった何らかの形で生徒が参加した音楽体験をすることで音楽への興味・関心を高める。

### 6 その他

- ・中学1年生だけでなく、保護者等（未就学児童は不可）の参加も可能とする（有料）。ただし、参加校の日程変更等により保護者の参加数が制限されることがある。

## 青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～

### 中学生を対象とした 「兵庫芸術文化センター管弦楽団」による青少年鑑賞公演の実施

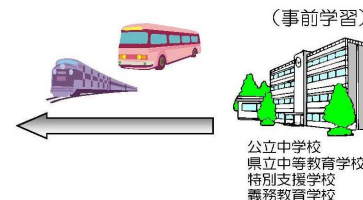
#### ねらい

阪神・淡路大震災の文化復興のシンボルとして西宮に設立された県立芸術文化センター及び同センター管弦楽団の設立を機に、県内のすべての中学1年生に本格的な交響楽団の演奏に親しむ機会を設け、音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操や感性を身に付けた人材を育成する。

- 対象：全公立中学校1年生  
（県立中等教育学校前期課程1年生、義務教育学校後期課程7年生、特別支援学校中  
学部1年生及び参加を希望する国立大学附属中学校1年生、私立中学校1年生等を含む）
- 場所：県立芸術文化センター（西宮市）



県立芸術文化センター



（事前学習）

公立中学校  
県立中等教育学校  
特別支援学校  
義務教育学校



### 「兵庫芸術文化センター管弦楽団」の 演奏による鑑賞教室の実施

- ① ホール体験教室
  - ・エントランスからホールに至るまでの空間を体験
  - ・音楽鑑賞の仕方や施設の概要の紹介
  - ・充実した音響設備や照明の機能について体験
- ② 鑑賞教室
  - ・楽曲、楽器の紹介
  - ・鑑賞  
（一度は聞いたことのあるクラシックの曲を紹介）

